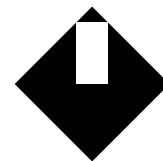


公認会計士稲門会



「コロナ禍のこの1年の活動のご報告」



ふじた せいじゅん
藤田 世潤

(1976年 社会科学部卒業)

何もできなかった一年と、会報の増ページ

現在三回目の緊急事態宣言が発出中です。校友会からの活動自粛要請もあり、電子メールやZoomでの定期総会と役員会以外には何もできず、寂しい一年でした。殊に、2年連続で合格祝賀会を開催できなかったのは、本当に申し訳なく、その代わりと言っては何ですが、2年分の多くの合格者に寄稿していただきました。また、お目にかかれる機会の少ない地方在住の多くの会員からも寄稿していただき、ボリュームたっぷりの会報になりました。誌上で些かなりとも総会の気分を味わっていただければ幸いです。

大学関係の出来事

2020年度の商学部の「税務会計論Ⅰ」の講師を柳岡泰明さんが、「税務会計論Ⅱ」の講師を昨年に引き続いて石毛章浩さんが担当されました。お二人には、オンライン授業対応で、例年以上のご負担をおかけしました。

2021年3月25日の大学院会計研究科の学位授

与式に、藤田が公認会計士稲門会会長として招待され、祝辞を申し上げました。代表者のみへの修了証書の授与で、校歌も1番の演奏を聴くだけ(全員マスクしたままで誰も歌わない)という異例の形式でした。それでも、卒業式だけでも出来て良かった、という一年でした。

奨学金給付事業と小西彦衛副会長のご逝去

公認会計士稲門会では、毎年アジアからの私費留学生に対して一人50万円の奨学金を支給してきています。今年度は、2名の留学生に計100万円の奨学金を給付し、過去30年間での支給実績は、延べ116名、累計5800万円になりました。

30周年を迎えられたのは、会員諸兄の長年のご協力と奨学事業委員会委員長として当事業を支えてこられた小西彦衛副会長のご尽力によるものと深く感謝するものです。その小西彦衛さんが2021年1月13日に急逝され、家族葬でお別れされたこと、一同驚き以外ありませんでした。脇田良一先生と近野博元会長から心温まる追悼文を頂戴し、小西さん在学习当時の日下部與市先生や日下部ゼミの皆様のお写真と共に、会として偲ばせていただくこととしました。

引き続き、よろしく願い申し上げます

なんだかんだ言ったって、やっぱりワセダが好きで、群れたがりはしないけれど、でもふと懐かしくなったら、是非とも総会にご参集いただき、三七21回「ワセダ、ワセダ、ワセダ、・・・」と声高らかに校歌をご一緒しましょう。うーん、早くご一緒したいです。

「公認会計士稲門会奨学事業」

－令和2年度奨学事業報告－

(奨学事業委員会委員)

藤田 世潤

(1976年社会科学部卒業)

現奨学事業を支えていただいている皆様に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。本事業は奨学資金をお寄せいただいている会員の皆様のお力によって運営している事業です。

毎年報告されておられた小西彦衛委員長が、2021年1月13日に享年74歳で逝去されました。亡くなる直前の1月11日にご子息の代筆で、奨学生の選抜と奨学基金の募集を藤田に依頼されるメールを頂戴しました。その時は長期の入院になられるのか程度の認識でおりましたが、振り返ってみると亡くなる直前まで公認会計士稲門会と奨学金事業を心配しておられたことに胸が詰まる思いです。奨学事業委員会は委員長（現在不在）と前会長、現会長、及び現総務担当副会長の4名で構成し、その合議で運営しております。令和2年度の奨学生が例年よりも少ない2名になりましたのは、あくまで推薦基準の該当者が2名だけだっ

たことによります。

アジア地域からの留学生を支えることは、近隣諸国との友好親善のためにも有意義なことと存じます。本会報に奨学生の寄稿文を掲載しています。

奨学資金は、「広く、軽く」を方針として、皆様に無理のない拠出をお願いしています。多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

早稲田大学のWebサイトから寄付できます

奨学資金は早稲田大学への寄付金として納付していただき、総長名の領収書と所得税の寄付金控除にかかる証明書が発行されます。寄付金の申し込み方法は、Webサイトからの申し込みと専用振込用紙による振り込みの二通りです。

早稲田大学のWebサイトから常時寄付申し込みができます。【早稲田 寄付】検索で寄付トップ画面に入ります。寄付申込みフォームにインプットする際に、「寄付の種類」は「奨学金」を選び、「指定先」は「公認会計士稲門会奨学金」を選びます。支払方法はクレジットカード又はペイジー（インターネットバンキング決済）です。

もう一つは専用振込用紙で大学の銀行口座に振り込む方法です。公認会計士稲門会の会費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

令和2年度の事業実績

1. 奨学金の給付状況

大学より次の2名を推薦いただき、各人に50万円を給付しました（学年は給付時）。

朴 建祐（パク ゴヌ） 商学部4年 韓国
夏 聡和（カ ソウワ） 基幹理工学研究科 修士2年 中国

2. 奨学事業収支年度別一覧（単位：万円）

年 度	H3～H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	累 計
寄付金収入	5,485.5	163.5	148.5	151	133	6,081.5
(寄付者数)	(1,688名)	(48名)	(42名)	(49名)	(46名)	(1,873名)
奨学金給付額	5,200	200	150	150	100	5,800
(奨学生数)	(104名)	(4名)	(3名)	(3名)	(2名)	(116名)
資金繰越残高	285.5	249	247.5	248.5	281.5	

3. 令和2年度寄付者芳名(順不同・敬称略) 令和3年3月31日現在

堀内 三郎	尾崎 隆昌	飛永 信雄	内田 善三	関根 愛子	四月朔日文範
香川 譽夫	金田 賢二	山口 俊明	松田 修一	稲葉 武彦	西山 隆司
鈴木 豊	倉橋 暁	猪股 世紀	塚田 知信	久保 直生	上野 紘志
杉田 純	水野 義雄	奥山 章雄	高井 宏司	小林 晟祐	近野 博
福田 安孝	石原 裕	小林 正樹	小暮 和敏	黒沼 憲	山田眞之助
七松 優	桑野 忠雄	渋谷 道夫	里村 豊	水谷 太郎	堀 秀行
長峯 徳積	渡辺 俊之	池之上孝之	前田 康雄	大槻 昌寛	湯川 喜雄
藤田 世潤	佐藤 正典	匿名2名			

以上、46名。

令和3年 定時総会のお知らせ

令和3年定時総会は、下記のとおりオンライン（ZOOM）での開催を予定しています。議案を電子メールでお送りしますので、事前にメール・アドレスを事務局にご連絡していただきます。事務局でメール・アドレスを把握している会員に議案とZOOMの要領を送信いたします。議案とともに議決権行使書もお送りしますので、ZOOMでのオンライン総会に参加されなくても、議決権行使書を送信していただくことによって議決に参加していただけます。今回の総会では、会長改選議案もありますので、新会長を盛り立てる意味からも積極的なオンライン総会へのご参加をお願いいたします。なお、コロナ禍の現況に鑑み、懇親会は実施しません。

日 時 令和3年7月8日(木) 午後5時30分より

開催方式 Zoom を利用してのオンライン総会

(事務局連絡アドレス: tomonkai@shinsoh.co.jp)

会費納入のお願い

今年も会費納入の季節となりました。同封致しました振込用紙で御振込頂ければ幸いです。なお、日本公認会計士協会準会員の方は、印字されている金額を3,000円にご訂正のうえ御振込頂けます。また、ご自身の会費納入状況をお知りになりたい方は、会計担当の副会長もしくは常任幹事にご連絡下さい。

公認会計士 6,000円 日本公認会計士協会準会員 3,000円

(振込先 郵便振替口座番号 00170-2-163893 口座名 公認会計士稲門会)

小西彦衛 副会長 追悼



昭和 21 年 8 月 10 日 小西彦太郎の長男として出生。
 昭和 37 年 早稲田大学高等学院入学。大木壮一さんと生涯にわたる交友が始まる(※)。
 昭和 40 年 早稲田大学第一商学部入学。学院同期 7 名商学部入学。
 昭和 42 年 日下部興市教授の「財務諸表論」ゼミに入る。
 昭和 44 年 早稲田大学第一商学部卒業。
 昭和 44 年 公認会計士・税理士加藤久雄事務所入所。
 昭和 47 年 プライス・ウォーターハウス会計事務所入所。
 昭和 50 年 12 月四月朔日啓子(日下部ゼミ後輩四月朔日丈範さんの令妹)と結婚。
 昭和 55 年 監査法人朝日会社入社。
 平成 9 年 朝日監査法人代表社員就任
 平成 21 年 あずさ監査法人代表社員退任。小西彦衛公認会計士事務所開設。
 平成 22 年 日本公認会計士協会東京会 会長就任
 令和 3 年 1 月 13 日 死去。享年 74 歳。

(※) 令和元年 11 月に亡くなられた大木壮一さん(昭和 21 年 8 月 8 日生まれ)と、早稲田大学高等学院時代から生涯にわたる交友が続いた。高等学院時代、小西さんは吹奏楽部でパーカッション・パートを担当し、落語研究会の大木さんに、定期演奏会での司会を務めてもらったこともある。日下部ゼミでともに学び、ともに公認会計士になり、小西さんは外資系会計事務所を経て、大木さんが勤務していた監査法人朝日会社に入社された。同監査法人では、ともにニューヨーク駐在を務められ、小西さんの前々任が大木さんだった。

「お別れの言葉」

ふじた せいじゅん
 藤田 世潤

(1976年 社会科学部卒業)

小西彦衛副会長・奨学事業委員会委員長に於かれましては、この1月13日に享年74歳でご逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。

あまりにも突然で驚き、愕然としております。総会で公認会計士稲門会奨学生を紹介される時の、ささやくようなハスキー・ボイスと優しい眼差しを忘れることができません。亡くなる直前の1月11日にご長男の彦晴様の代筆で、当会の奨学生の選抜と奨学基金の募集の事務の依頼と、日本公認会計士協会東京会の東京 CPA ニュースの論説委員長の後任の依頼のメールを頂戴しました。その時点でのご進捗状況、次の予定、関係者との連絡方法等々、とても細かいご指示でした。小西さんのことから、進行中のお仕事のすべてについて同様の連絡をされたのではないかと思います。メール受領時は入院中の代打を務めるだけの認識でしたが、今改めてメールを読み返してみても、「後任」という文字に気づき、もしかしたら死期を悟っておられたのでしょうか。あるいは回復されることを信じておられたのか知る由もありませんが、いずれにしても小西さん

の責任感の強さに圧倒される思いです。小西さんと特に親しくさせていただくようになったのは、2004年に東京会の副会長をご一緒した時からです。家父長的な包容力を常に持ち、とにかく辛抱強い人だなあ、というのが協会会務を通じての小西さんの印象でした。背の低い四男末っ子の私にとって、何をしても怒らないで庇ってくれる体格の良い長兄という存在でした。その見識と人柄から、監査法人退職後も多くの公職に就かれてご活躍されましたが、亡くなるまで修了審査運営委員会委員長を務めておられたことをご存じの方は多くないと思います。その性格上口外されなかったと思いますが、監査制度の担い手の確保という制度的な要請もあり、ご心労があったのではないのでしょうか。修了審査運営委員会委員長でありながら、「今でも会計士試験に落ちた夢を見るんです」とこぼされていたという話を聞きました。高名なお父上を常に意識しながら、誠実に同業者の王道を歩まれた小西さん、それにしても早すぎます。コロナ禍の中で家族葬を望まれたのは、小西さんらしくて何の異論もございません。でも突然置いて行かれた私どもは、気持ちの整理がつかえません。せめて、会報での公認会計士稲門会葬でお別れをさせていただきます。長い間の公認会計士稲門会へのご尽力に改めて厚く御礼申し上げます。

「小西さんと日下部ゼミの思い出」



公認会計士稲門会 元会長
近野 博
(1970年 商学部卒業)

永年にわたり公認会計士稲門会の奨学事業にご尽力されてこられた小西彦衛さんが、令和3年1月13日に亡くなられました(享年74歳)。あまりに突然のことで言葉もありません。故人のご意向に従って家族葬にてお別れされたとのことでした。

小西さんは、公認会計士稲門会において、大野高正先生(故人)と田中祐輔先生が発起人となって始められた、東南アジアからの留学生に対して奨学金を支給する事業の推進役として永年にわたってご尽力されました。原則毎年4名の留学生に各50万円を支給するもので、本年度30周年を迎えましたが、その原資は公認会計士稲門会の有志の寄付によるものです。これまで延116名に5800万円もの奨学金を支給してきました。その資金集め、留学生の選考、大学との折衝、毎年12月に開催される「総長招待 指定寄付奨学生の集い」への出席等々に精力的に取り組んでこられました。

小西さんは、朝日会社・あずさ監査法人に勤務され、監査業務に従事する傍ら会計士協会の活動にも携わり、日本公認会計士協会・東京会の会長としてもご活躍されました。また、その後は公益財団法人日本相撲協会の評議員としてもご活躍されました。テレビのニュースに映された小西さんの姿をご覧になった方も多いのではないでしょうか。

私が初めて小西さんにお会いしたのは商学部の日下部ゼミでのことです。2年制のゼミで小西さんが4年生、私が3年生の時でした。当時監査論では第一人者として知られていた日下部興市先生

の「財務諸表論」というゼミで、このゼミのおかげで私は数多くの素晴らしい先輩、同級生、後輩との出会いを得ることとなりました。

小西さんの同級生の中では、對馬和也さん(朝日・あずさ 故人)、大木壮一さん(朝日・あずさ 故人)、高橋章二さん(ハスキング・トーマツ)、青木千鶴子さん(旧姓久保村)等が後に公認会計士となりますが、その他にも多彩なメンバーがいました。對馬さんは個性派で議論好き、大木さんは落語がとても上手で、圓生の口真似は絶品でした。高橋さんは成績優秀で、学部の懸賞論文に入選し、その賞金で我々後輩にまで食事をご馳走してくれました。そしてそのゼミ生の輪の中心にはいつも小西さんがいました。当時からとても面倒見が良く、誰からも慕われ、信頼される存在でした。また、小西さんのお父上は、やはり高名な公認会計士で小西彦太郎事務所の所長として、若き日の日下部先生に二次試験合格後の業務補助の指導をされたそうです。親子2代にわたるご縁です。

私の学年には、佐藤正典(朝日・あずさ 元理事長)と小林正樹(静岡、袋井市で開業)がいて、行動を共にしていましたが、二人はとても優秀で在学中に会計士試験二次試験に合格しています。日下部先生が会計士試験の受験を奨励していたこともあり、ゼミ生からは多数の会計士が生まれており、同期でも他に何名かの会計士がおります。またCPA研というボランティアの組織があり、合格者が受験生の指導をしていました。

私の下の学年には、石原裕君、劔侍俊夫君、四月朔日丈範君などの会計士がいますが、変わり種としては後に衆議院議員となる吉野正芳君がいます。当時吉野君はごく普通の学生で、まさか後に政治家になるとは思いませんでした。

2011年の東日本大震災の後の年末、吉野君が私の事務所を訪ねてきました。吉野君の出身地は福島県いわき市、吉野君も震災の被災者でした。来訪の目的は吉野君の後援会の会長就任の依頼でした。それまでは、ゼミの同期の佐藤正典が後援会長をやっていたのですが、佐藤が政府系の「原子力損害賠償支援機構」の役員に選任されたため、後援会長を続けられないとのことで、私が後援会長を継いで今に至っています。現在7期連続当選。復興大臣を拝命しました。

ゼミの同期生が中心となって吉野君を応援する会が「三木会」です。奇数月の第三木曜日の夜に飲食を共にしながら語り合い、励ます楽しい会で、6～7人位集まります。ゲストとして関根愛子さん（前日本公認会計士協会会長、現早稲田大学教授）や辻山栄子早稲田大学名誉教授にも参加して頂いています。新型コロナウイルス禍でしばらく休会となっているのは残念です。

ゼミの先輩には多くの会計士がいます。関正弘さん（ハスキング・トーマツ）、峠孝司さん（ハスキング）、金子輝男さん（ハスキング）、片山哲也さん（ハスキング）、渋谷道夫さん（新日本）など。会計学者としては脇田良一さん（立正大学、明治学院大学、公認会計士監査審査会）がいらっ

しゃいます。私も卒業時に日下部先生の推薦によりハスキングに入所しました。（1970年）

日下部先生は、日本の監査制度の長年の懸案であった、非上場の大規模な株式会社の株主総会に会計士の監査報告書の提出を義務付けるという「商法監査特例法」の実現に取り組んでおられ、全国各地を飛び回り、啓蒙普及のための講演活動を行っていました。その無理がたたってか、1975年1月に病に斃れます（享年46歳）。あまりに早すぎる死でした。同年10月、恩師である佐藤孝一先生死去（享年71歳）。

小西さん 日下部先生とどんな話をされているのでしょうか。ご冥福をお祈りします。

合掌



◇昭和44年2月卒業生追出し旅行（湯田中温泉）

看板左側	☆ 大木壮一さん
前列座位左から2番目	☆ 對馬和也さん
前列座位左から3番目	☆ 小西彦衛さん
2列目中腰左から3番目	☆ 青木千鶴子さん
2列目中腰左から5番目	★ 小林正樹さん
最後列中央（一番背が高い）	★ 近野 博さん

注）☆：44年3月卒業（当時4年生）

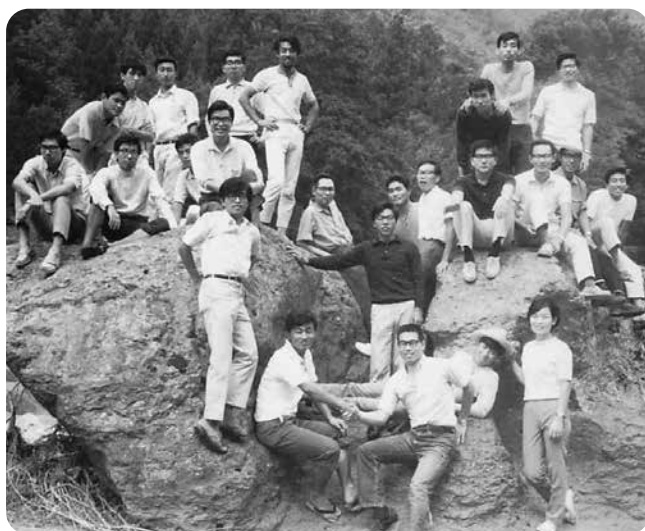
★：45年卒業（当時3年生）

昭和44年日下部ゼミ夏合宿（老神温泉吹割の滝）◇

前列中央右（眼鏡）☆小林 正樹さん
 前列中央左（小林さんと握手）★吉野正芳代議士
 着帽で寝姿勢 ★剣持 俊夫さん
 中央奥岩に肘をかけて立姿勢（眼鏡） 日下部與市先生
 後列日下部先生から左に二人目立姿勢（眼鏡）★松本 榮一さん
 右側後列で肩に手を置かれている ★石原 裕さん

注）☆：45年3月卒業（当時4年生）

★：46年卒業（当時3年生）



※ 掲載写真は、吉田恵美さん（明治大学公認会計士会理事）を通じ、ご両親で、近野さんと同期の、吉田光久さん、恵子さん（旧姓：鈴木）からご提供頂いた物です。貴重な写真のご提供有難うございました。

「小西彦衛さんを偲ぶ」

— 日下部與市先生、小西彦太郎先生
の思い出とともに —



脇田 良一
(1963年 第一商学部卒業)

第一商学部に入學し、31歳の少壯助教授であられた日下部與市先生の「簿記」を受講した。講義は簡潔明快、加えて名門旧制都立第三商業のご出身で、算盤も達者、記帳処理も手際よく、「簿記は一種の技術、何よりも練習が第一」と繰り返され、普通高校出の私は呆然とした。先生は、商学部在学中、昭和24(1949)年実施の第一回公認会計士試験・第二次試験に合格、1960年に商学部教授になられた。「会計監査」の立て板に水の講義は学生を魅了し、日下部監査論を集大成された「会計監査詳説 中央経済社刊 1962」は64版と版を重ねた。この書を懐かしむ公認会計士の方々は多い。後に、公認会計士試験委員、大蔵省企業会計審議会幹事、委員を歴任され、監査基準及び企業会計原則の改訂、商法特例法の会計監査人監査導入のための制度的調整に貢献されたが、1975年1月26日に病のため亡くなられた。享年46歳だった。

商学部日下部ゼミへの参加を許された私は、幸運にも大学院商学研究科日下部ゼミの第1期生として先生のご指導を受けた。先生は即断即決の方だったので、論文の草稿を持参すると、その場で一読され、「これでは駄目」と全頁に朱墨でバツテンをされたこともあったし、理髪店で散髪中の先生からお小言をいただいたこともあった。今にして思えば、日下部先生の数々のご叱正のお陰で、不敏な私が、80歳の今日までの人生をなんとかたどり着けたとのだと、有難く感謝するばかりである。

そのような院生時代、日下部先生から、「小西彦太郎先生がご病気なので、お手伝いをするように」とご指示があった。彦太郎先生は、公認会計士特別試験と特例試験及び第三次試験の試験委員を歴任され、1963年5月黄綬褒章を受章された公認会計士界の大先輩である。緊張してお手伝いをし、その経過報告のため、度々、野方のご自宅に伺っていた。そこで、ご長男の彦衛さん(後に日本公認会計士協会東京会会長)にお会いした。その後、彦衛さんも、商学部日下部ゼミに参加され、サブゼミや懇親会等で、気配り細やかに取りまとめ役を務められていたのが印象深い。彦衛さんはゼミ論文集(第3号)に「会計の外部報告について～目的適合性概念を中心として～」を寄稿され、「外部報告の場合、被報告者が多様である。報告は完全に一方通行であって、被報告者の反応は明確にされない。そこで報告者には、被報告者が求めているものが正確に把握されていない。このような性格を持つ外部報告の報告事象について、どのようなものが報告されるべきかを考えてみたい。」と問いかけ、「AAA. A STATEMENT OF BASIC ACCOUNTING THEORY 1966」を手掛かりに論じ、「わが国の実務界で、完全に目的適合性を全うしている会計報告書が一つある。それは税務申告書である。」と結ばれている。この洒脱な結びから、厳しさを秘めた、小西彦衛さんの、あの温かな笑顔が懐かしく思い出されてくる。

さて、私事であるが、金融庁/企業会計審議会監査部会長として、「平成14年のリスクアプローチを徹底した監査基準の抜本改訂」と「平成25年の監査における不正リスク対応基準の設定」及び「平成26年の準拠性意見表明の枠組を導入する監査基準の改訂」を取り纏めるに当たり、また金融庁/会計監査の在り方に関する懇談会座長として「平成28年の政策提言」を行う際に、稲門の皆さんから多くを教えられた。さらに、平成16年の金融庁/公認会計士・監査審査会常動委員就任時には稲門の皆さんに背を押していただいた。本当に心強く、職責を果たすことができた。お礼を申し上げる。



在りし日の 日下部與市先生

「早稲田での留学生活、 また新たな一歩へ」



朴 建祐
2020年度 奨学生
(商学部4年)

はじめまして。商学部4年に在学している朴建祐と申します。この度は公認会計士稲門会奨学生として採用していただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの影響を受け、通常より大変な状況が続いているものの学業増進のために支援をいただいたことに再び感謝の言葉を申し上げます。

早稲田大学での留学生活は私の人生の中で最も有意義な時間であったと言えます。初めに日本に来た2015年には誰も知らず、また初めて外国生活であったため不安を感じていました。一方、いい成績だけを求める母国である韓国の入試から抜け出して自分の将来を多方で描いていく期待も持っていました。「充実な留学生活を送りたい」ということを心に刻みつけ、その一環としてバスケットとバドミントンのサークルに入りました。韓国の高校では普段サークル活動が一般的ではないため、本格的に道具を備え、ユニホームを着て競技に出る経験は私にとって組織の一員として所属感を感じさせる貴重な経験でした。しかし、韓国の2年生が終わった後、徴兵の義務として兵役に行かなければならないことになりました。どうせ今の時点で努力するといつて全てのことは2年間途切れてしまうと思ひ込み、2年生の末頃はサークル活動と学業に対して消極的になりました。そうして2年生が終わった後、韓国に戻って2年間無事に徴兵義務を終えました。復学後は兵役に行く前の2年生の末頃に専攻として会計トラックを選んだため、財務諸表分析論や連結会計論・業績管理会計論・原価計算論などさらに専門的な会計科目の登録を行いました。しかし、基礎会計学の

知識のもとで授業を進めなければならないものの兵役に属した2年間学校で学んだ基礎会計学の知識はすっかり忘れたため、最初からやり直すと思ひ込み、学期が始める前に基礎会計学の水準に相当する簿記3級の勉強からはじめました。勉強をすればするほど1年生の時に授業で学んだ知識が少しずつ思い浮かべ、私が登録した会計トラックの授業に追いかけることができました。本格的に学び始めた会計学という学問は興味深いものでした。「会計はビジネスの言語」と言われるように会計の役割は単に帳簿整理にすぎないわけではなく企業関連全ての利害関係者に財務情報の信頼性を与えるということに魅力を感じました。このことより3・4年生にかけて様々な会計の授業をとりながら公認会計士を目指すことになりました。

私は将来母国である韓国で公認会計士になり、日韓両国で活躍したいと思ひます。最初は日本で公認会計士を目指したが、授業の時に最近日本でIFRSを使う企業が増えていると聞き、IFRSの翻訳本であるをK-IFRS準用する韓国で公認会計士を取得したら日韓両国で活躍できると思ひました。また、本来留学の意味を考えると「留学での経験を生かして両国間の利害関係を理解したい」ということより韓国で公認会計士を取得してBIG4会計法人に入社し、早稲田大学出身という強みを生かして国際ネットワーク・ファーム下で連携する日本のBIG4監査法人にも進みたいと思ひます。コンバージェンスやフルアドプションなどを通じて国内での企業間に限らず、国家間の取引でどのような会計基準間の差があるのかを理解して調整することを身につけて日韓両国に貢献できる公認会計士になることを目指し、現在公認会計士の勉強をやっております。

最後に公認会計士になって日本に進出したら今度奨学生として採用していただいた公認会計士稲門会に属して優秀な先輩と関係を築いていきたいと思ひしております。また会計に限らず、日韓友好関係において交流を深めることにも貢献したいと思ひます。新型コロナウイルスの影響を受け、大変な時期に支援をいただいたことに再び感謝の言葉を申し上げます。奨学生として早稲田大学を輝かせる人材になるように最善を尽くすことをお誓ひします。

「早稲田大学での生活・思い出、 今後の夢・抱負」



夏 聡和

2020年度 奨学生

(基幹理工学研究科修士課程2年)

早稲田大学基幹理工学研究科、情報理工・情報通信専攻、石川研究室修士1年在学している夏聡和と申します。この度、2020年度の公認会計士稲門会奨学生として採用していただきまして、誠にありがとうございます。このコロナ禍という最も大変な時期を乗り越えるため、生活上で甚大なお支援を頂いていることで、学業や社会活動により専念することができました。再び心より感謝申し上げます。

私は幼い頃から、3D・CG技術などに関する技術に興味が強まってきて、高校生の時に、セガ社が主催するイベントに参加したことがあります。このイベントは音楽に合わせ、リアルタイムに3Dキャラクターを踊ることを示され、私はこの技術に惹かれました。それから、私は3D・CG技術の応用に強く関心を持ち、「高校を卒業したら、日本に留学することができれば、そこで最先端の3D・CGに関する技術を勉強することができれば必ず幸せだよな?」ということは常に頭の中に浮き現れていました。これは、私が日本へ留学するきっかけです。

そして、高校卒業した後日本へ参り、入学試験を攻めて早稲田基幹理工学部学系3に入学し、2年生の時に情報通信学部に進級しました。そこで、

画像処理に関する知識を身につけて、コンピュータからの視線から見ると画像が単なる数値しか過ぎないが、それをうまく処理することで、全く別の画像のように見えることができます。これに関心を持ち学部を卒業した後、石川研究室に入研しCGに関する研究を着手しました。

私は「高次元空間における効率的な探索方式」というテーマに精力的に取り組んでいます。敵対的生成ネットワーク (GAN) はトレーニングデータ (画像) の分布を学習し、与えられたデータと似たような画像を生成することができます。しかし、このGANにより生成された画像を可視化する前に未知であるため、望む画像を生成することが困難です。また近年、GANの発展により生成される画像の解像度と品質が向上するに連れて、画像をパラメータ化する 潜在空間はより高い次元である必要があり、望む画像を生成することはさらに困難になります。そのため、私は潜在空間内の探索を容易にする直感的かつ視覚的に、より少ない探索回数で望む画像を生成できる探索手法を提案し、ユーザーインターフェースを備えた高解像度の顔画像を生成するシステムを構築することを中心に研究しています。私はこのテーマをより深く進め、様々な国際学会にて自分の研究成果を発信し、CG技術を活用することで、芸術創造をより簡単にするために貢献したいと考えており、日本および母国である中国にとどまらず、日本と世界と親善の橋になりたいと考えています。

AIは今、あらゆる分野で急速に活用が進んでいます。そこで、私は大学で機械学習や画像処理に関する研究で培った知識や技術を活用し、一人ひとり豊かな社会の創造に貢献したいと考えています。そのために、日本での就職を通じて、現場で働く社員のノウハウを学びたいと考えます。

今後の日本での生活でも、奨学生として採用され、貴重な支援をいただくことを忘れず感謝の気持ちを胸に残り、自分の役割に最善を尽くします。

「公認会計士の可能性」



西山 茂

大学院経営管理研究科教授
(1984年政治経済学部卒業)

1 ご縁と感謝

約40年前に公認会計士を将来の選択肢として考えながら本学に入学し、1年生の時に杉田純先生の御講演をお伺いして公認会計士に魅力を感じ、勉強を始めました。その後、公認会計士講座などで鈴木敬治先生や木村マリ先生をはじめ、稲門の先輩の先生方から体験談を伺いアドバイスをいただきながら、運よく当時の二次試験に合格できました。監査法人時代も、多くの稲門の先輩、同僚、後輩の公認会計士の先生方にお世話になり、また会計士補会の担当理事であった奥山章雄先生、清風会の小林晟祐先生、藤田世潤先生など多くの稲門の先生方に大変お世話になりました。約20年前から縁あって本学の経営管理研究科(ビジネススクール)の教員として奉職させていただいておりますが、ここでも松田修一先生、花堂靖仁先生、また研究の面では櫻井通晴先生にご指導いただきました。今回執筆のお話を頂き、これまでを振り返る中で、公認会計士稲門会、また稲門の先生方から多大なご支援、ご指導を頂いてきたことを改めて認識し、ご縁を感じるとともに深く感謝しております。

2 公認会計士の未来

話は変わりますが、2013年にオックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授らが、コンピュータ化の進展によって米国の702の仕事のうち約47%が大きな影響を受け、10~20年以内にほぼ自動化されるというセンセーショナルな研究結果を発表しました。その中で、自動化されやすい仕事の8位に税金の申告業務、32位に簿記・会計・監査業務が挙げられており、会計・監査・税務関係の仕事は、近い将来かなり自動化されてしまい、公認会計士という職業の未来も明るくないのではないか、といっ

た見方も出てきました。

しかし、私は公認会計士の未来は、やり方次第で十分に明るくなるのではないかと考えています。確かに、税金の申告や、簿記、会計、監査の業務の中には、一部単純作業が含まれており、それらの業務はコンピュータ化やAIの進展で自動化される可能性はあると思います。しかし、公認会計士の業務のうち、会計の知識や経験を基にした判断や評価、また将来へ向けた見積もりや予測などはそれほど単純なものではなく、自動化は簡単なものではないと思います。このような面から価値を生み出し、業務の幅を拡大し、さらに他の分野と結びつけるといった方向性を目指すことで、公認会計士の活躍の場はまだ拡大する可能性があるように思います。具体的には3つの方向性があるように思います。まず1つ目は、監査、税務、会計といった公認会計士の主要業務の知識や経験を深め、エキスパートになっていく方向性です。単純作業はコンピュータに任せ、その結果をもとに、コンピュータにはできない最終的な判断や評価の面で貢献していくのです。経済や社会が変化する中で、新しい視点での判断や評価が求められる場面がこれからかなり出てくるように思います。2つ目は監査をはじめとする保証の業務などの拡大です。公認会計士の主要業務である財務諸表監査に加えて、SDGsやESGへの関心が高まる中で、それに関連するKPIなどの数字の保証を求める流れが出てきています。この保証が求められる分野はまだ拡大余地があり、それを含めて公認会計士の業務はまだまだ拡大できる可能性があるように思います。3つ目は、監査・会計・税務といった公認会計士の主要業務の知識や経験、考え方を、経営・社会などのほかの分野と関連付けて活用し、その価値を高めていく方向性です。監査・会計・税務に詳しく、それらを経営や社会と結びつけて考えられる人材は、私のビジネススクールの学生を見ても、必ずしも多くはありません。会計分野の専門家である公認会計士が他の分野にも一定の強みを持つことで、企業経営や社会に価値を提供する機会はかなり多いと思います。前述のオズボーン氏らには、今後ビジネスパーソンとして生き残っていくためには、Creativity(創造性)とコミュニケーション力などを意味するSocial Skill(社会的なスキル)が重要だといっています。このような能力も磨き、上記のような方向性を目指すことで、公認会計士の未来はかなり明るくなるのではないのでしょうか。

「コロナ禍の大学」



八重倉 孝
(商学学術院教授)

商学部教員の八重倉と申します。2015年9月に着任し、財務会計を担当しております。公認会計士稲門会の先生方には様々な面でお世話になっておりますことを感謝しております。

今回、稲門会報への寄稿の機会を頂きまして、新型コロナウイルス禍での大学の様子をお伝えさせて頂くことに致しました。昨年度の大学におけるコロナ対応の時系列は以下ようになります(日付は全て2020年)。

- 2 / 25 3月24日までイベント等を中止または延期するようにとの指示が出される
- 2 / 28 上記イベント制限を4月5日まで延長(卒業式・入学式の中止が決定)
- 3 / 6 授業開始を4月20日以降に繰り下げることを決定
- 3 / 16 春学期の授業形態がオンラインになる可能性が示される
- 3 / 24 授業開始が5月11日で確定
- 3 / 28 全面オンライン授業の準備を教員に指示(4 / 2に公表)
- 4 / 6 教職員の在宅勤務開始とキャンパス閉鎖(4月21日まで、後に5月31日まで延長)
- 7 / 3 期末試験の全面オンラインを決定
- 7 / 15 秋学期は限定的に対面授業を再開することを決定(商学部の場合、ゼミに限り対面を可能とした)

上記の対応の中で、オンラインによる授業の実施は学生・教員共にほぼ初めての事態で、教員と

してはどういう準備をすれば良いのか、試行錯誤のうちに一年があっという間に過ぎて行きました。

対面授業からオンライン授業に変わったことで、良かったこともあります。たとえば、オンデマンドの授業であれば学生諸君はビデオを繰り返し視聴することが可能となりますし、自分のスケジュールに合わせて学習を進めることができます。教員として有り難かったことは、一コマ90分の制約に囚われることなく、伝えたいことを全て伝えられることでした。いつも時間に追われて授業が尻切れトンボになる私には大変助かりました(ときに長時間のビデオを見せられる学生諸君には迷惑だったかも)。

もちろん、マイナス面もありました。とくに、教室での学生諸君の反応を見られないのはビデオを準備するときに大変困りました。対面の授業では学生の顔色を見て「今の説明はマズかったかな」と気が付いて説明をやり直すことは日常茶飯事なのですが、パソコンの画面相手のビデオ収録ではそれがありません。また、試験をオンラインで実施することで出題内容に大きな制約がかかったため、本当に学生諸君の理解度を測れたのかどうか不安です。さらに、ゼミのような、教室内の活動だけではほんらい完結しない科目でも、コンパも合宿も企業見学もできない、という大変残念な状況でした。

始まったばかりの2021年度春学期は、商学部の場合、語学科目と一部の必修科目およびゼミについては対面で授業を行っていますが、多くの講義科目はオンライン授業を継続している状況です。

コロナ禍が終息し大学が平常に戻れば、オンラインと対面を融合させた、従来の対面のみでの授業よりも教育効果の高い形での授業を行うことが可能になります。たとえば、テキストの説明は事前にビデオ授業で済ませ、教室では事例研究を行う、ということが出来ます。以前からそういう方向に授業のやり方を変えていかなければならないといわれていたのですが、なかなか浸透していませんでした。それが、コロナという思わぬ原因で新しい形での授業のためのソフト・ハード共に準備ができてしまいました。今は一日も早くそのような新しい形での授業ができる日が来る事を祈っております。

「回り道人生行路」



水谷 太郎
(1994年 政治経済学部卒)

貴重な寄稿の機会を頂きありがとうございます。40歳を過ぎてから公認会計士となった者が回り道しながら見た景色が、公認会計士稲門会の皆様のご一興となれば幸いです。

1. 大学卒業前後の受験は不合格

1989年(平成元年)に大学に入学いたしました。テニスサークルでの活動を軸に遊蕩三昧を謳歌し勉学は無縁で過ごした帰結として、学部2年生終了時に留年が確定しました。さすがに危機感を抱き、難関資格取得により出直したいと思い公認会計士試験に挑戦しました。今振り返れば動機付けが不十分であったことで、三回受験するも全て不合格でした。家族からは諦めて別の道を選びなさいと諭され、受験を断念し就職しました。

2. 転職先での再度挑戦

二度の転職を経て、2005年に現在の勤務先(店舗小売業:現(株)ケーズホールディングス)に就職しました。当初の営業配属から一年程で経理部門へ転属しました。上場している勤務先では会計ビッグバン以降、会計経理周りの知識経験がある人員を経理部門へ補充しており私もその一人でした。

この2006~10年頃の時期、勤務先は同業他社に対する積極的なM&Aにより業容拡大を進めておりました。企業結合会計基準の適用に四苦八苦しつつ、店舗小売業に影響の大きい会計基準である改正リース会計基準(当時)や資産除去債務会計基準の開始初年度適用準備に加え、内部統制報告制度の導入が重なり激務の毎日でした。この状況に対応するには会計知識を刷新しないと覚束な

いことを痛感しつつ、同時に、監査法人所属の公認会計士の方達と協議を重ねる内、過去に合格を諦めた自分への不甲斐なさを覚えるようになりました。2009年の暮れ頃でしたが、再度試験に挑戦したい思いを家内に打ち明けたところ快諾してくれたこともあり、働きながらの受験勉強を始めました。

3. 家内の叱咤激励による合格

再開後の初回受験であった2010年12月短答式試験は不合格でした。引き続き2011年5月短答・8月論文合格を目指し勉強を続けておりました。

そこへ2011年3月11日東日本大震災が発生しました。北関東在住であり日常生活に少なからず影響を受け弱気になる私に向かって、家内が「世の中が大変な中、それでも貴方は勉強ができる環境にあることに感謝しなさい」と叱咤激励してくれました。そのお陰で幸運にも2011年5月短答・8月論文の合格を果たすことが出来ました。

4. 補修所での出会い

合格後、補修所に通う中で数人の貴重な知己を得ました。多くが20代の若者の中、自然と30代40代が集い情報交換や会食を共にするようになりました。その内の御一方が同窓の堀秀行先生です。この仲間達に助けられ修了考査を乗り越えました。堀先生、今後ともよろしくお願いします!

5. これからも回り道

監査経験がなく上場企業は1社のみの実務経験であり、企業を俯瞰する目線についてより研鑽を積まなければならないと感じます。例えば、先に述べた新たな会計基準の適用では現実的な「落どころ」の設定が必要ですが、選択肢を用意する上で引き出しが少なく苦慮した記憶があります。

現在は、経営企画部門に携わっております。コーポレートガバナンス・コード改訂案(2021年4月6日付)にて示されたサステナビリティ課題への対応等、企業を新たな視野から捉え直し適応することがより求められていると考えます。

今後も様々な紆余曲折からの回り道をすると思いますが、私の座右の銘であります『禍福は糾える縄の如し』を胸にこれからも進んでまいりたいと思います。

「田舎の会計士の暮らし方」



岡 英一
(1976年 商学部卒業)

先日、公認会計士稲門会の藤田世潤会長より会報への寄稿依頼メールが入りました。藤田会長は早稲田の同期で、所属クラブは違うもののお互い合気道をやり、監査法人も同じトーマツ、しかも司法書士をしている弟が仕事を紹介していただいております、私で良ければと寄稿させていただくことにしました。

早稲田の思い出

私は日下部ゼミの最終ゼミ生です。監査論の第一人者であった日下部先生のゼミに入れたのを喜んでいたゼミ1年目に、当時商法改正があり国会で野党の質問に答えておられた先生が過労のためか黄んで亡くなりました。日下部先生は難しいことをやさしく聞きやすく話されました。監査論の中身もさることながら話方を勉強するため落語を聞いていた、と言われたことを今も思い出し自分の話し方を反省しています。日下部先生が亡くなった後を脇田先生（後に明治学院大学学長や、金融庁／企業会計審議会委員・監査部会長等歴任）に指導いただいたのですが、脇田先生も公認会計士2次試験の試験委員等で目を酷使されたためか目の手術をされたので卒論の指導を受けるため静養先の鎌倉にあるご自宅まで通い、奥様に食事を食べさせていただいたことを懐かしく思い出します。また、脇田先生手術のため休職中には染谷先生、大学院の日下部ゼミの先輩であった栄光監査法人におられた高嶋博治先生や八田進二先生（青山学院教授、金融庁／企業会計審議会委員・内部統制部会長）にゼミを指導いただいたりとたくさんの方にお世話になったことに感謝しています。

田舎での会計士の仕事

その後監査法人で監査とMS業務（システム開発）に東京で6年、ロス・アンゼルスで4年程従事しました。私は香川県の小豆島出身であり父が税理士であったためその後小豆島へ帰って来ました。帰ってきた当時はイメージ処理やOCR処理システムを開発するため睡眠時間も削って仕事をしました。体力に自信があったものですからその後不動産鑑定士もとり、妻も英語塾講師をしていたのが社会保険労務士の仕事を始めてくれたので家内も一緒に税務を中心に仕事一筋で来ました。しかし、さすがに60歳を超えると無理がたたり4年前に入院を余儀なくされました。

それまでは、いつか引退し、自分の好きなように田舎暮らしをしようと思って居ましたが、これでは死ぬまで仕事一筋だと気付きました。田舎に住んでいて都会と変わらない生活をしていたことを反省し、生活を変えることにしました。今は朝、犬と近くの、桜、ツツジの咲く道を散歩し、仏壇の前で静かに座りながら裏の畑のウグイスの鳴き声に耳を傾ける時間をとっています。もちろん仕事はやっていますが、帰りには途中の港で車に常備している竿でメバルやアジ等を釣って翌日のおかずに使っています。又、休みには裏の畑でレモン、みかん、梨の栽培や、野菜を作っています。

とは言っても、AIの進歩により我々の業界も変革を余儀なくされ、顧問先の対応だけでなく、時代の変革にどう合わせていくか、自分の事業承継をどうするか、コロナや田舎の人口減少、企業の減少、労働人口の減少等対応に苦慮する毎日でもあります。

幸いに弟が東京より帰り登記部門を担当してくれており他に島にいる2人の公認会計士も一緒に仕事をしてくれています。又、甥が公認会計士試験合格者として監査法人に勤務しており、後を継いでくれそうなので、あともう一踏ん張り頑張っています。

田舎に帰るときに京都の根本中堂で聞いた最澄の「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」の言葉を胸に刻み、顧問先の皆さんのお役に立てる事が自分の使命であると考えています。

田舎の生活を楽しみながら、島の人たちの役に立つ、自分としては、一番いい人生を送らせてもらっていると感謝している今日この頃です。

「東日本大震災を乗り越えて」



矢川 昌宏
(1974年 商学部卒業)

私は現在宮城県石巻市で公認会計士・税理士事務所を開設して40年になります。1970年に商学部に入學し、1976年に二次試験に合格し、監査法人勤務を経て、1981年に故郷石巻市で開業しました。石巻市は漁業・水産・造船の町で、人口約14万人の宮城県第二の都市ですが、当時、200カイリ問題とオイルショックで主力産業が不振で構造不況都市でありました。そのため、倒産企業が多く、会社更生法・和議・商法整理事件が多発し、弁護士とともに、整理員・調査員・管財人等の仕事をさせていただきました。税務業務においても、新人のため、通常の税務書類作成等の仕事がなく、敬遠される税務訴訟の補佐人、国税不服申立の税務代理人、査察事件の税務代理人等の業務を地道にこなしておりました。

監査法人時代の元同僚達が東京でグローバル企業の監査業務を担当しているのをうらやましく思いながらも、東北の過疎地域で頑張っている地域中小企業と共に、社会の発展に貢献するのが私の公認会計士の使命と自覚し、頑張りました。

開業してから15年目に大手監査法人の仙台事務所開設の話があり、わずかばかりの監査クライアントを持ち込み、代表社員として参加しました。監査業務と税理士業務の二足の草鞋を履いたわけです。5年後に、監査法人を退所し、その後、新

しくできた税理士法人制度により、YAC税理士法人を石巻にて設立しました。その2年後、仙台事務所も開設し、公認会計士2名、税理士2名、総勢20名程の事務所になりました。

ところが、忘れもしない2011年3月11日、確定申告業務の真っ最中に、あの震災が起こったのです。当市は日本最大の被災地となり、死者（関連死を含む）・行方不明者が3,971人、市の80%相当が被害を受けました。私も命からがら逃げ出し、九死に一生を得ました。クライアントの85%が被災し、事務所廃業もやむなしと考えました。

石巻市周辺は廃墟と化し、復興は無理かと思われました。しかしながら、市民の復興への熱い想いが国や自治体を動かし、また、全国から訪れたボランティアの方々の力で、10年という年月をかけて以前の状態の90%まで戻りました。

多くの方に御助力いただきここまで乗り越えてくることができましたが、特に、早稲田大学の復興支援隊・応援団・チアガールズの皆様の暖かい援助には感謝の念に堪えません。当時大学の理事であり、名誉教授（元会計検査院長）であった大塚宗春先生の励ましには石巻稲門会の仲間も大変感謝しております。

この復興10年間で、背水の陣で業務に集中した結果、現在公認会計士6名、税理士4名、社労士3名、総勢60名の陣容となり、石巻と仙台を拠点に日々邁進しております。

2020年度には、高校・大学の後輩である当事務所の税理士佐々木陽君が41歳で公認会計士試験に合格したことは、大いなる喜びであります。

石巻という地方にいて、いつも公認会計士稲門会の会報を拝読させていただきながら青春の早稲田時代を思い出し、頑張ってきました。

この度は、執筆の機会を与您いただきまして大変有難うございました。

今後とも、公認会計士稲門会の皆様のますますのご発展をご祈念申し上げます。

「青い森から、ふるさと 早稲田大学を想う」



倉成 美納里 (旧姓 榊田)
(1990年 商学部卒業
1992年 商学研究科修士課程修了)

私は現在青森県在住ですが、東京南青山の出身です。商学研究科在学中に会計士二次試験に合格し、大手監査法人に就職後、結婚を機に主人のふるさとの青森県八戸市に移り住み、既に24年になります。青山から青森へという、たった一字違いですが、都心から地方への移住生活に、周囲の人にはかなり心配され、自分でも最初は戸惑いでしたが、住めば都で、今では第二のふるさとになりました。

会計士を目指したきっかけは、会計専門家への明確な志からではなく、商学部の友達が大学と専門学校のダブルスクールを始めていて、「資格を取るのも悪くないな。」という軽い気持ちでした。バブル経済絶頂期の大学1、2年の頃は、テニスサークルで早慶戦の観戦や合宿という名の旅行を楽しみ、家庭教師やパン屋などのアルバイトでお小遣いを稼ぎ、大学周辺の美味しいランチを友達と食べるのが日課のような緩い女子大生生活を楽しみました。学部時代は広告論のゼミに所属し、一般企業への就職も考えましたが、積み重ねた会計士の勉強を無駄にするのが惜しくなり、無職になるのを恐れて、大学院（管理会計が専門の小川洸先生のゼミ）に進学しました。会計士試験合格が第一目標だったので、大学院の勉強は疎かで、特別な研究成果はありませんでしたが、親身な指導を頂いた先生方やゼミの先輩方、試験勉強を応援してくれていた同期や後輩、そして学び舎早稲田大学には感謝の念に堪えません。早稲田大学は、多様な人材を許容する懐の深さは日本随一だと思います。

現在の業務に関しては、会計士、税理士として、

監査業務と税務業務の両方に従事しています。税務業務は、中小企業や個人事業主の日々の記帳、相談、各種税務申告書作成が中心です。監査業務は、地方公共団体、学校法人、医療法人、公益法人、社会福祉法人、労働組合の法定監査を担当していますし、10年ほど前までは金商法・会社法監査にも従事しました。特に、地方自治体包括外部監査では、自らが包括外部監査人を務めた青森県の監査報告書が平成28年度の全国市民オンブズマン大賞に選ばれ、和歌山での市民オンブズマン全国大会の授賞式に参加したことは、苦勞した分、会計士としての達成感を得た良い思い出です。地方では、身をもって監査の公共性を実感することができます。

また、地方は特に女性会計士が少ないため、委員の男女バランスを考慮した自治体などから、会計専門家として依頼される公職委員（地方独立行政法人評価委員会、年金記録確認地方第三者委員会、等々）を今まで、多種多様に務めてきました。地方にいるからこそ、女性の会計士として私にお声が掛かり、社会貢献が少しは出来ていると自覚しています。

同業者の夫は慶應大学出身で、仕事では協調・協力していますが、家庭内では子供の教育方針ひとつをとっても、早慶戦の如く激しく戦うことがあります。しかし、最良の理解者であり、産休以外は休むことなく会計士を続けてこれたのも、夫のお陰だと思います。

今春、娘が早稲田大学大学院会計研究科に入学しました。また、私もこのような会報への寄稿の機会を頂き、親子共々お世話になり感謝申し上げます。私にとって、今でも心の拠りどころの一つであるふるさと、早稲田大学に娘が入学したことはこの上ない喜びです。地域、世代、性別を超えた公認会計士稲門会人脈の益々の隆盛を心から願います。

結びに、ふるさと八戸のPRを少しだけさせてください。東京都民だった頃はお刺身を苦手になっていた私が、大好物になったほど、うに・イカ・ヒラメ・ホタテなどの海産物が安くて新鮮で美味しいです。会計士として、自然、食、人材の豊かさには無限定適正意見を保証します。是非お近くにお越しの際はお声がけください。

「早稲田大学とのご縁」



小長谷 敦子

(1984年第一文学部 心理学専攻 卒業)

私は、元会長渡辺俊之先生のご紹介でこの公認会計士稲門会に入会させていただきました。この度、会報への執筆機会を与えて下さり、とても光栄に存じ、ご感謝申し上げます。渡辺俊之先生とは、先生がチャーターメンバーとしてお作りになった優和公認会計士共同事務所（現：優和会計人グループ）に私が入会致したことで、お知り合いになることができました。

今回は地方を拠点とする公認会計士ということで執筆のお話を頂きましたが、京都という土地柄もあり、少し変わった仕事をさせていただいておりますので、そこに触れさせていただこうと思います。

私は大学を卒業後、西武百貨店に就職し、史跡巡りや美術鑑賞が趣味だということアピールしたため、美術部門に配属されました。

5年間の勤務後退職、苦勞の末、公認会計士の道に進むことになりました。2次試験合格後、大阪の公認会計士事務所に就職し、主に私学助成法監査や公益法人の会計に従事致しましたが、その所長が急死されたことをきっかけにやむなく独立することになりました。

独立して20数年が経った今、京都府社会福祉

協議会の監事、京都の文化財を保存する公益財団法人の監事や、臨濟宗のお寺の会計をさせていただいております。京都の文化や福祉に直接触れることができ、その季節ごとの行事や習慣の奥深さを知り、こうした法人の会計に携わっている喜びを日々感じております。しかし、私のような何もバックボーンのないものが、「ご縁」を重視する京都の法人にすんなり入っていったわけではありません。これも「公益法人の会計をやっているのなら」「百貨店の美術画廊で働いていた経験があるのだったら」ということで、京都の優和会計人グループの先生から紹介していただいたから実現したことです。

また、京都を代表する企業「京セラ株式会社」の監査役をされていた当会所属の田村繁和先生とのご縁も仕事の転機になりました。田村先生は京セラ株式会社の「業績報告会」に出席されていたご経験から、その報告会を中小企業に合うように工夫し、部門別の経営会議をされています。私もそのお手伝いをさせていただいておりますが、最近では、中小企業だけではなく、公益法人に対しても部門別経営会議のコンサルティングを行っております。社会福祉法人、市町村社会福祉協議会や学校法人等でも行うところが増えてきました。というもの「措置から経営」という流れによって、公益法人にも採算意識が不可欠となり、業務の効率化や収入確保のための施策が急がれるようになったからだと思います。

微力ではありますが、会計を通して福祉・教育・文化に貢献できていることは、私にとって大きな喜びであり、こうしたお仕事のきっかけを与えて下さった早稲田大学の諸先輩方にご感謝申し上げます。これからもご縁を大切に、福祉の精神、文化や技術を後世に残すために日々努力されている法人に少しでもお役に立てるように頑張りたいと思います。

登録住所及び登録メールアドレス変更の際のご連絡のお願い

会報を登録住所に送付し、メール・ニュースを登録メールアドレスに配信しています。転居や事務所移転等に伴う登録住所やメールアドレスの変更がある際には、公認会計士稲門会事務局宛のご連絡 (info@cpa-tomonkai.jp) もしくはホームページ (<http://www.cpa-tomonkai.jp/>) の「お問い合わせ」からご連絡頂くようお願いいたします。ホームページのお問い合わせは、HOME ⇒ お問い合わせ、からもアクセスできます。

「会計士という職業を知ってから 現在まで」



篠河 清彦
(1978年政治経済学部卒業)

1. 公認会計士に魅力を感じる

私は高校生の時、あまり勉強はしませんでした。が考え方だけは真面目だったようで、自分が進む学部を選ぶためには、まず将来の職業を選択しなければならぬと考えていました。そこで、当時旺文社から発行されていた全職業紹介の冊子入手して主な職業の内容、向いている性格、収入の状況等を比較検討しました。

それまで、公認会計士という職業は知らなかったのですが、やりがいのありそうな職業であると感じたこと、会計士に向いていると記載されていた性格が自分に当てはまると感じたこと、収入は多いと記載されていたことに魅力を感じました。医師にも興味があったのですが、医学部に合格するためには高校時代に相当勉強しなければならないのに対して、公認会計士を目指すのであれば大学生になってから頑張れば良いので、高校時代は楽ができるという短絡的な発想も大きな要因でした。

母方の祖父が法学部、父が理工学部でしたので自分も早稲田に行きたいとの思いがあり現役のときは早稲田一本に絞って受験しましたが、楽しい高校生活を満喫したせいか見事に失敗し、1年浪人後ようやく合格できました。ちなみに私の長女も商学部だったので、4代にわたって早稲田大学にお世話になったことになります。

2. あっという間の大学生活

高校時代から空手部に所属していたこともあり、入学後は極真空手部に入部しました。当時の主将は東孝さんで、数年後に全日本選手権で優勝し、後に大道塾という世界各地に支部をもつ総合格闘技を創設したすごい方でした。人間的にも尊敬できる方でしたが4月3日に逝去されたとの報

道がありました。心からご冥福をお祈りいたします。極真空手は1年間で退部しましたが、当事の友人とは今も交流が続いています。

2年生になって某会計専門学校の会計士入門コースに入りましたが、最初は全くついていけず苦勞しました。ちなみにその時の簿記の先生が今や日本を代表する会計学者である若き日の八田進二先生でした。四苦八苦しながらも何とか合格レベルに近づき3年の時に受験しましたが、1回目では合格できず2回目の受験で合格できました。

3. 多様な経験ができた監査法人時代

大学卒業後、当事の監査法人栄光会計事務所(現：新日本有限責任監査法人)東京事務所に入所して会計士人生がスタートしました。「異常点着眼的監査技法」で有名な野々川幸雄先生とも何度もご一緒させていただき、質問の仕方とか偽造証憑の見分け方等を教えていただいたのは大変良い経験となりました。

数年後に札幌事務所へ希望転勤させてもらいました。地方事務所の特性なのでしょうが、札幌事務所では会計監査だけでなくいろいろな業務に従事することができました。

第1回情報処理システム監査技術者試験に運よく合格できたこともあり、銀行のシステム部への往査や住基ネットの監査も経験しました。また、IPO準備会社の指導、財務デューデリ、合併比率算定、不正事件の調査、内部統制整備支援、某航空会社の民事再生申立事件の補助、某地方鉄道会社の存続可否に関する意見書作成等、多様な業務に従事できたのは幸運だったと思います。

4. 監査法人退職から今まで

監査法人を定年退職した後は暫くのんびりと過ごそうかと考えていましたが、ずっと家にいるのは良くないと思ったので個人事務所を開業することにしました。あくまでもマイペースで若干の監査、税務業務と社外役員に就任する他、2019年6月からは北海道会の会長に就任しています。地域会会長に就任して今までお世話になった方や地域社会に対して少しでもお役に立ちたいと思っていましたが、昨今の新型コロナウイルス感染騒動により協会活動も大きく制限され、大変残念な思いをしています。

一日も早くコロナが収束して、また以前のようにのびのびと活動できる日がくること、並びに会員の皆様のますますのご健勝を祈念しております。

「地方での公認会計士の仕事」



稲葉 武彦
北部九州会

(1987年 政治経済学部 政治学科卒業)

今回初めて投稿いたします稲葉武彦と申します。自己紹介をいたしますと、昭和39年生まれの現在57歳です。平成3年に公認会計士2次試験に合格し、5年ほど監査法人で働き、平成8年に福岡県朝倉市において個人事務所を開業いたしました。

私は現在、日本公認会計士協会北部九州会に所属しております。北部九州会がカバーするのは福岡県、佐賀県、長崎県の3県で、会員数は803名です(令和3年2月末現在)。佐賀県・長崎県は1県1部会ですが、福岡県だけが3つの部会(福岡部会、北九州・筑豊部会、筑後部会)に分かれており、私は筑後部会に所属しております。会員の8割以上は福岡部会所属です。

筑後部会のエリアは久留米市を中心とした福岡県南部一帯で、域内人口は82万人ほどですが、

部会員はわずか28名ではほぼ全員が個人で開業している会員です。

私自身は公認会計士事務所を営むとともに、税理士法人を立ち上げ、その代表社員に就いています。業務の割合としては、税務業務の方が7割ほどを占めております。公認会計士事務所の業務の内容としては、学校法人や社会福祉法人の監査、非営利法人(公益法人や社会福祉法人等)に対する助言業務などがあります。事務所にはもう1名公認会計士が働いていますが、朝倉市及び隣接する朝倉郡(合わせて人口8万人)において公認会計士は私と彼の2名のみです。まさに公認会計士過疎地域といった様相です。

こうした状況は私が主に働く朝倉市に限らず、全国の地方都市に見られることではないでしょうか。上場会社の監査等、都市部には多くの公認会計士が活躍する場があるのは確かですが、地方にも公認会計士に対する相当のニーズがあります。しかし、人材が不足しており、十分に期待に応えることができていないというのが実感です。

今、福岡都市圏は日本でも最も元気な地域の一つです。大学をはじめとする教育施設や商業施設も多く、市内では多くの開発がおこなわれています。そのため若い人も多く、アジアへの玄関口として国際交流も盛んです。

今年は9月17日(金曜日)に、第42回日本公認会計士協会研究大会も福岡市で開催される予定です。環境が整っていれば、ぜひ足をお運びいただきたいと思います。

公認会計士稲門会ホームページについて

公認会計士稲門会では、2012年10月にホームページを開設いたしました。是非、ご覧ください。
URL www.cpa-tomonkai.jp

公認会計士稲門会は、会員相互の親睦、情報交換の場として会員がボランティアで運営しております。総会、ゴルフコンペ、忘年会等の親睦や合格祝賀会の開催等の後進育成をしております。また、特筆すべき事業としてアジアからの留学生

に対する支援と母校への講師の派遣を行っております。母校とは「士学協同」し高い評価をいただいております。

コンテンツが、不十分ですが今後充実させていただきますので、よろしく願いいたします。会報発行費、通信費等の費用は会費によってまかなっております。会費を納入いただき、維持会員として活動をサポートしていただければ幸いです。

「30年を振り返って」



伊藤 正佳

(1995年商学部卒業)

1997年商学研究科修士課程修了)

現在、鳥海山と出羽三山と日本海に囲まれた故郷の山形県酒田市で個人事務所を開業している伊藤正佳と申します。この度は寄稿の機会を頂き有難うございます。平成3年4月に早稲田大学商学部に入學してから30年が経ちました。改めてこの30年を振り返ってみるには良い機会かと思ひ、筆を取りました。

田舎から不安を抱きながら上京しましたが、幸いにも入學時に振り分けられた語学のクラスに最初より馴染む事が出来ました。クラスの友人とは飲みに行ったり、旅行に行ったりしました。しかし折角商学部に入學したのだからという事で会計を本格的に勉強してみる事にしました。勉強を進めていく内に得た知識を活かした職業に就きたいと思ひ公認会計士の資格を知り志す事に決めました。

大学3年になって受験専門学校への通学の傍ら、視野を広げてファイナンス論も学んでみたいと思ひ、大塚宗春先生のゼミに入れて頂きました。ゼミの同級生は皆仲良く、振り返ると青臭い気もしますが、当時の悩みだったり、大学卒業後の将来に対する不安だったり素直に相談できる仲間にも恵まれました。

平成7年3月に大学を卒業後、大学院商学研究科に進学し、石塚博司先生のゼミに入れて頂きました。ゼミでは研究テーマについて真摯に向き合う事で理論的な思考法を学べました。そしてこちらのゼミでも先輩方を含め皆仲が良く、木曜日の午後がゼミの時間でしたが終了後は必ず早稲田駅界隈の居酒屋で語り合った事が思い出です。幸い

にも修士課程1年の時に公認会計士の第2次試験に合格する事が出来ました。その後、修士課程に席を置きながら平成8年10月に青山監査法人に入所しました。

監査法人入所後は証取法監査や商法監査、海外企業からのリファードワークなどに従事しておりました。後に監査法人が合併し中央青山監査法人となる際に監査以外の分野にも携わりたいと思うようになり、トランザクションサービス部というM&Aなどを手掛ける部署に配属させて頂きました。当該部署には1年半ほど在籍し、平成13年12月末に退職しました。叔父の知り合いが酒田で公認会計士事務所を営んでおり、後継者を探していた事から誘いを受けました。

平成14年に誘いに乗る形で帰郷し、当該事務所に入所しました。現在は私が事務所を主宰する形となっております。地方での業務は税務が大半を占めており、監査法人時代にはあまり縁の無かった所得税や相続税なども手掛けております。またクライアントの会計事務所に対する垣根が低く、専門外の事でも質問を受ける事が多々あります。その様な時に監査法人時代に監査業務以外の業務に携われた有難みを感じております。

近年では公認会計士業務の領域が拡大しつつある様に感じます。地方、特に県庁所在地でない地方では金商法や会社法監査に従事することは殆どありません。従前は幼稚園を設置する学校法人監査がメインでした。しかし幼稚園が施設型給付を受ける施設に移行し法定監査の対象外になっても、引き続き適正な計算書類を作成するため任意監査を受けたいというニーズは存在します。また、地方経済では大きな存在の農協に対する公認会計士監査も導入され、当該監査に対するニーズもあります。

酒田に戻った後は大学との繋がりも希薄になりましたが、大学時代にお世話になった大塚宗春先生は今も公認会計士協会の監事として活躍されております。また石塚ゼミでお世話になった先輩方は全国の大学で教鞭を取られております。さらに嬉しい事に入学当初、遊んでばかりいた語学のクラスの友人の中から数名が公認会計士として活躍しています。これからも大学時代に縁があった方々より刺激を受けながら、地方での会計のインフラを支えるべく努力して参りたいと思ひます。

「会計士冥利」



黒沼 憲
(1968年 第一商学部卒業)

64 - 456 は、私の第一商学部での学籍番号でした。そして会計士協会での公認会計士登録番号は、7089番とこれも並びの良い数字です。「64」は東京五輪の年の入学生であり、五十音順の456番目ということです。公認会計士としての登録は、36歳を間もなく迎えようとしていた頃でした。

家業との関わりを断って、昭和51年に会計人の仲間入り。会計士補で入所した監査法人事務所は、地方で税務会計中心に事務所を主宰する公認会計士の先生方が、商法監査特例法の会計監査人監査の導入や、銀行・保険会社の商法監査及び証取法監査の実施による被監査会社の増加に対応すべく、大手監査法人の地方事務所として開設されて間もない状況でした。法人本部と地方事務所の業務連携はほとんどなく、監査結果の審査会に関与社員に随行する程度で、多くの時間を税理士の補助業務に費やしていました。

お世話になった最初の監査法人は平成2年に退職し、税理士の家内との共同事務所を開設しました。時は第2次公開ブームの真ただ中ということもあり、税務クライアントの2社が、ベンチャーキャピタルや生損保会社等から10億円を超える出資を受けるなど、幸先良いスタートとなりました。外資系法人勤務でUターン希望の優秀なCPAの入所もあり、事務所も質量で充実しました。平成3年暮れ、大手監査法人に地方事務所代表社員として参画しました。この監査法人とのお縁のおかげで、稲門会計士の娘も本部事務所に勤務中に、思いもかけない伴侶とのめぐり逢いもできました。

そんな監査法人と個人事務所を掛け持ちの中でも、国際的な企業へ業務拡大する税務クライアント

が出てきたことで、海外取引実務・国際税務・国際金融取引など、地方の会計事務所では扱う機会の少ない実務にも従事できました。極めつけは、(監査法人としての関与が解消した) 関与先の精密玩具メーカーの経営建て直しを任されたことでした。販売子会社のあるロスをはじめ、シンガポール・香港・上海の工場視察のため渡航も多い年は10回を超えました。この間、国際訴訟事案もメルボルンの地で経験しました、スイスの大手銀行の担当者を追って、台北支店迄交渉にも飛びました。適法なオフショア取引として日本の国税当局にも認められた海外子会社の留保金の回収に、預け先金融機関を相手とした国外裁判でも勝訴できました。しかし、世界市場で競合する中国勢の台頭が著しく、ピークを過ぎた時期での事業再建は困難を極めました。劣勢状況からの挽回はかなわず、それでも最終的には、機関投資家を含めた全株主に出資額を超える配当できる状態で清算処理ができました。

私の会計士としてある意味で激動の時も去り、近年は、落ち着いて税務を中心とした会計事務所の責任者としての役回りを、会計士冥利に浸りながら楽しんでおります。

仕事を離れば、松下政経塾の塾頭をされた上甲晃先生にご一緒して、平成12年から10年連続の「中国理解講座」に加わり、旧満州地区からチベットの果てまで、「誰よりも中国通になろう」と出かけました。続く講座では「世界から目を離すな」と、北アイルランドやイスラエル、トルコ、ロシアなどにも足を延ばしています。

ゴルフは40歳過ぎてからのスタートですが、持ち前の体力勝負の我流で楽しんでます。高校時代まで、野球と陸上競技の部活をしてきましたので、「フルマラソンではサブスリー(3時間切り)」「ゴルフはシングル入り」も容易いと考えていましたが、前者では約10分超過、後者でも足踏み状態が続いています。

ちなみに、協会役員の方々の東西対抗ゴルフ大会の東北会後援「山形大会」の世話役を仰せつかり、山形の旬の名物料理や抜群の鮮度を誇る尾花沢スイカで満喫いただきました。

中でも、当時の会長の奥山章雄先生にはクライアントの上山温泉・村尾旅館には、昭和天皇御宿泊のお部屋を準備させました。このご利益か、オブザーバー参加の私ば「蔵王CC. No10ミドルホール」でイーグル達成のご褒美をいただきました。

「合格までの道のり」



佐々木 陽
(2004年 商学部卒業)
★2020年度合格★

この度は、公認会計士稲門会会報に寄稿させていただき機会をいただき、誠にありがとうございます。稚拙な文章ではありますが、私の公認会計士試験合格までの道と今後の目標について書かせていただきます。

1 合格までの道

(1) 大学卒業まで

私は、田舎の公立の男子校出身で、東京での華やかな大学生活に漠然とした憧れを抱き、商学部へ進学しました。3年生になり、同級生が就職活動を初めたのを機に焦りはじめた私は、国家公務員としてスケールの大きな仕事がしたいと考えました。

(2) 就職・辞職・転職・休職

国家公務員試験に合格し、「市場の番人」として公正な取引環境を縁の下から支えるという理念に魅力を感じた公正取引委員会に入庁しました。しかし、入局して実際に入札談合事件や価格カルテル事件に取り組んでみると、取締業務という性質上誰からも感謝されることはなく、達成感や充実感を得ることができませんでした。自分はどのような仕事をしたいのかと自問自答する日々を過ごすなか、次第に納税者の適正な申告をサポートする税理士という仕事に魅力を感じ、思い切って辞職して地元に戻り、税理士試験に専念して短期合格を目指すことにしました。

一部科目合格後、縁あって高校・大学の先輩である矢川昌宏先生の事務所に採用してもらい、働きながら残りの科目を取得して、税理士として業

務に取り組んでおりました。

税理士として業務に取り組む中で、次第に、お客様から税金に関するアドバイスに加えて、経営に関するアドバイスを求められるようになりました。しかし、税理士試験では、原価計算、会社法及び経営学は試験範囲外で全く勉強してこなかったため、的確な提案をすることができずに悔しい思いをすることが多くなりました。そうした状況にあって、原価計算等の知識の基礎を短期間で得るため、公認会計士試験に挑戦しようという考えに至りました。

ただし、公認会計士試験の範囲は膨大であるため、働きながらの短期合格は難しいと感じ、矢川先生に休職の許可を頂き、一度税理士登録を抹消し、期限を決めて受験勉強に取り組みました。

(3) 受験勉強

休職中は自宅で予備校の通信講座を受講しました。休職1年目に短答試験に合格し、2年目に論文試験に合格することができました。

合格までたどり着くことができたのは、何とんでも矢川先生をはじめとした事務所の皆様のご理解・ご協力及び家族や友人といった周囲の方々の支え・応援のおかげであると改めて感じております。

この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2 今後の目標

合格発表の翌々日から復職して税理士の再登録を行い、現在は、税理士業務に取り組む傍ら、監査業務の補助を行っております。

今後につきましては、引き続き税理士業務をベースにしつつ、税理士ではできない会計士業務についても積極的に取り組み、お客様により良いサービスを提供することができるよう精進していきたいと考えております。

最後になりましたが、稲門会の一員としてこのような機会をいただきまして誠にありがとうございました。

公認会計士稲門会のますますのご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

「一歩ずつ、確実に」



黒田 俊

(2020年大学院会計研究科修了)

☆2019年度合格☆

この度は公認会計士稲門会に寄稿する貴重な機会をいただき、大変光栄に思っております。僭越ではございますが、私が公認会計士を志すきっかけやこれからについて書かせていただこうと思います。

1. 公認会計士との出会い

私が公認会計士試験を知るきっかけは、高校2年生の頃、進路を考える時期に叔父から公認会計士を勧められたことでした。当時の私は公認会計士がどのような職業かそこまで詳しくはいたませんが、商業高校で多少培ってきた会計のスキルを活かせると感じ、公認会計士試験の合格を目標としました。

2. 大学時代

大学に入学してからすぐ、公認会計士試験の勉強を始めました。しかし、公認会計士試験の壁は私の想像以上に高いものでした。大学入学後いざ勉強を始めると、とても難しく、なかなか理解することが大変でした。特に高校時代全く知らなかった企業法と監査論はお手上げでした。その後私は惰性で会計士の勉強をしつつも大学生時代をアルバイト、ゼミ生との遊ぶことも多い生活をしていました。そのおかげで、今でも気軽に会える友人を得ることはできたため、決して無駄ではない4年間を過ごしました。しかし、公認会計士

試験受験という意味では、短答式試験に合格するわけでもなく、ただただ時間を無駄にする日々でした。

そんな私は大学卒業後、早稲田大学の会計研究科に入学しました。きっかけは大学のゼミの教授から勧められたからです。その時の私は、多種多様な働き方ができる公認会計士が魅力的であるため、資格を手に入れたい、一方で今までの勉強では公認会計士試験には合格できないと感じ、自分に活を入れるため、会計研究科に入学しました。

3. 早稲田大学会計研究科入学

会計研究科に入学した私は学内の環境に驚きました。特に驚いた点は、周りの会計士試験受験への必死さです。会計研究科の自習室には朝早く行けば受験生が勉強を始め閉館時刻まで残って勉強をし続けている人が多くいたからです。その環境のおかげか、学友と切磋琢磨することができ、つらい時も心をおれずに勉強できたと思います。結果、私は長い期間を経ながらも公認会計士試験に合格することができました。これは一緒に勉強できた学友だけでなく、大きく負担をかけた家族にも感謝しています。

4. 今後の目標

合格後は監査法人に就職し、現在は就職してから1年がたちます。

現場に出て感じることは、日々の勉強を怠らないこと、クライアントとのコミュニケーションを欠かさないことが重要であることです。

今はまだ公認会計士としての大きな目標はございませんが、目の前のクライアントからの期待に応えられるために、一歩ずつ着実に努力を重ね、成長していきたいと思います。

最後になりましたが、今回は会報に寄稿させていただきありがとうございます。私も公認会計士として社会に貢献できるよう日々頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

「合格までの道、今後の道」



小池 由輝也
(2018年 商学部卒業)
☆2019年度合格☆

はじめに

このたび公認会計士稲門会の会報に寄稿する機会をいただけたこと、大変光栄に思っております。私は、このような機会をいただくには凡庸な人間です。英語が得意でもなければ、学生時代に会計以外の分野について深く学んだわけでもなく、前職での経験もありません。短期間で合格者でもなければ、上位合格者でもありません。

しかし、そんな凡庸な私の文章だからこそ、今後公認会計士合格を目指す方、目指すか悩んでいる方の一助となれるのではないかと考えています。公認会計士稲門会会員の皆様におかれましては、拙文をご笑覧いただければ幸いです。

本稿では、私の合格までの道と今後の目標について書かせていただこうと思います。

合格までの道

私が公認会計士を志したことには、特に大きな転機があったわけではありませんでした。私が興味のあることを学ぶことができる学部だと思い商学部を選び、商学部に関連する進路の中でも最難関である公認会計士資格に興味をもった、という程度でした。

大きな動機こそなかったものの、早稲田大学入学後の比較的早い時期に公認会計士を志した私でしたが、合格までに長い期間を要してしまいました。その要因はひとえに合格に必要な総勉強時間に達するまでに長い期間を要してしまったことだと思います。

おそらく合格に必要な勉強時間の個人差というのはあまり大きくなく、お仕事等と両立しながら合格される方は忙しい中で勉強時間をつくるのが上手な方、短期間で合格される方は長時間集中して勉強することができる方なのだと思います。

私は他にやるいろいろなとあるときに勉強時

間を確保するのがあまり上手くなく、また丸一日を勉強にあてることのできる日でも長時間集中して勉強し続けることが苦手でした。しかし、ゆっくりでも着実に合格へ進んでいく、そんな合格までの道もあっていいのではないかと思います。

私の受験生としての日々はあまり順調とは言い難いものでしたが、今思い返してみても後悔はしていません。勉強時間が少ない要因となっていた試験勉強以外の活動から得たものも少なくないと思っていますし、公認会計士試験の受験生としてあまり優秀ではなかったことで謙虚になることができ、今後の自己研鑽への意欲が強くなったと思います。

今後について

公認会計士試験の合格には長い期間を要してしまいましたが、勉強することは嫌いではありません。むしろ幅広い知識を身につけることに魅力を感じる質であり、その知的好奇心こそ私のアイデンティティにして公認会計士に向いているところなのではないかと思っています。

公認会計士としても、幅広い分野、幅広い業務に携わりたいと思っており、ありがたいことに現在勤務している新日本有限責任監査法人では一般事業会社の監査に加えてパブリック分野、金融分野の監査にも関与させていただいております。将来的には集中的に従事する分野を定め、幅広い分野に精通しながらも得意分野をもった公認会計士になりたいと考えています。また、仕事を通じた学習のみでなく、余暇でも幅広く自己研鑽していきたいと思っています。様々な学問について広く学ぶだけでなく、娯楽に分類されるようなことも幅広く経験することで、仕事で関わる方々とのコミュニケーションが円滑に進むようになり、それが信頼へとつながっていくのではないかと思います。周囲から信頼される公認会計士が私の目標です。

おわりに

このたび公認会計士稲門会の会報に寄稿する機会をいただけたことで、自分は早稲田大学の卒業生なのだとことを再認識いたしました。

公認会計士稲門会会員の皆様の存在を心強く感じるとともに、早稲田大学卒業生の名に恥じない公認会計士にならなければならないと身が引き締まりました。

現時点では凡庸な私ですが、広く深い知識を身につけ、非凡な公認会計士になれるよう精進していきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

「早稲田で過ごした5年とこれから」



中村 美月

(2019年 商学部卒業)

2020年 商学研究科修士課程修了)

☆2019年度合格☆

この度は早稲田稲門会会報への寄稿の機会をいただき、誠にありがとうございます。2019年度論文試験に合格して1年少々経ちますが、このような機会をいただき大変光栄です。

私が会計士を志したきっかけは大学受験時に遡ります。中学生のころから数学が好きで、将来は数字を使った職業に就きたいと考えておりました。ずっと理系クラスに所属していたため数学受験で早稲田大学商学部を受験し、数字を使って経済の動きを見てみたいという動機のもと、会計のプロフェッショナルである会計士を志しました。

大学に入学してからは自分とは異なるバックグラウンドの友人ともたくさん出会い、視野が広がりました。もともと幅広いことに興味があった私は、様々なことが学べる機会のある早稲田大学の環境をフル活用すべく、会計分野だけでなく多くのことを学びました(体育では乗馬、ゴルフ、ボクシング、バレエダンスなど15個くらい履修していたことは今でも話のネタになっております笑)。現在でも連絡を取り合う友人も多く、大学での人との出会いや経験は一生の宝です。その中でも特に大きな影響を受けたことは、2年次の秋から所属したゼミでの長谷川恵一教授との出会いです。長谷川教授のもとで勉強するうちに勉学についてももっと極めたいと考え、早稲田大学院商学研究科で5年ほど前から始まった、一定の要件を満たせば学部4年と修士1年で修士修了の称号が手に入るという5年一貫制度に推薦していただきました。会計士試験と両立しながら1年で修士論文を書き上げるということはかなり困難なこと

でしたが、会計士として長年働くことを志す上で何か少しでも試験用の会計知識以外のことで武器を身につけたいという強い想いも原動力となり、周りの方々にも励まされ、乗り越えました。

勉学以外でもバイトを掛け持ちしたり、趣味の旅行に関しては海外旅行には家族や友人と毎年3回以上、国内旅行には北海道を1ヵ月かけて1人旅したり、離島で住み込みボランティアを経験したりするなど、非常に実りある5年間の学生時代を過ごせました。勉強や研究など頑張るところでは粘り強く努力し、自由な時間は思い切り楽しむという充実した生活を送れたのも、早稲田大学の環境と周りの方々のサポートあってのことです。現在複数の多様な会社の監査を担当しており、これらの幅広い経験が生かせる 때가来れば良いと思っております。

2019年12月に感染が確認された新型コロナウイルス感染症流行の影響で、2020年2月の新人研修は対面でできたものの、4月からの現場はリモートが多いという環境で1年間の監査法人生活が過ぎました。初めての社会人生活がリモートスタートだったこと、先輩方もリモートでの監査業務を試行錯誤していた時期だったということもあり不安なことも多くありましたが、新人育成やリモート業務のあり方を考慮してくださり、多くのことを吸収しております。期末・四半期監査だけでなく、内部統制の整備・運用等外部開示書類以外にも検討することがあります。また、IPO業務にも携わっています。前述のように学生時代から幅広いことに興味があり多くのことに挑戦することが好きな私は、多様な業務機会・業種のクライアントに携われる環境に毎日刺激を受けております。現在はリクルーターとしても活動しており、自己成長だけでなく、微力ながら会計士を目指す人が増えるお手伝いもしていきたいと考えています。

まだ長期的な今後の目標は具体的には決まっておりませんが、現在の恵まれた環境およびこの環境に至るまで導いてくださった今までの環境に感謝し、まずは修了考査に合格して名実ともに一人前の会計士になれるよう、早稲田魂を忘れずに謙虚かつ貪欲に学んでまいりたいと思っております。稲門会の一員として、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

「公認会計士への道、今後の目標」



野川 郁哉
(2020年政治経済学部卒業)

★2020年度合格★

この度は、公認会計士稲門会会報に寄稿していただく機会を頂き誠にありがとうございます。2020年3月に早稲田大学政治経済学部経済学科を卒業した、野川郁哉と申します。本日は、公認会計士を目指す契機と今後の目標について記載させていただきます。

1. 公認会計士を目指す契機について

まず、私が公認会計士を目指すきっかけについてお話しします。

実は私、大学1・2年生の間、「公認会計士」という資格について考えたこともありませんでした。早稲田駅から早稲田大学までの道のりで、しばしば様々な予備校さんの広告ティッシュが配られていることは早大生なら言うまでもないと思いますが、そのとき私は「こんなティッシュに本当に宣伝効果があるのだろうか」「学生の間は遊んでいたい」と思っていました。ここで、そんなごく一般的な学生であった私が公認会計士に興味を持ち、ついには某予備校のティッシュを片手に訪問したのは大学3年生の秋ごろでした。

公認会計士を目指そうと思った理由は、大学3年生の就活期において、社会に出て活躍するためのスキルや知識等を持っていないという事に気付き不安を感じたためです。就活で多くの学生や多くの社会人の方と接する機会を持ったことで刺激を受けたのだと思います。公認会計士試験は受験資格が特にありません(司法試験であれば、法科大学院に行くことや予備試験に合格することといった、司法試験を受験するための資格が必要と聞いています)ので、大学3年生からでも目指しやすく、また経済学科だったので経済界に進みたいという思いもあり公認会計士を選びました。

学習の進捗は、大学4年生の12月に短答式試験に合格し、大学卒業後の11月(新型コロナによって例年8月開催であったが延期された)の論文式試験に合格しました。大学4年生の卒業旅行はできませんでしたが、大学卒業後すぐに働くというわけにもいきませんでした。それでも公認会計士を目指すという判断は正しかったと思っています。

2. 今後の目標

この原稿を作成している私は現在、公認会計士人生1年目の新人です。したがって、新人なりのフレッシュな目標を記述させていただきます。

ありきたりかもしれませんが、私は一芸に秀でた公認会計士になりたいです。先述したように、公認会計士を志望した理由は社会で活躍するためのスキル等を持っていないことに不安を感じたためです。しかし、公認会計士試験に合格すると今度は、周りには多くの公認会計士の方が存在し、その中で自分が活躍していくためのさらなるスキル等が必要になります。そこで周囲から差別化するための一芸に秀でた公認会計士と述べたのです。

では、一芸とはどんなものがあるのでしょうか。たとえば、「コミュニケーション能力」があると思います。監査業務であれば監査チームのメンバーだけでなく、クライアントの方等の多くの方と接する機会があります。また、「会計とは別の知識」という考え方もあります。公認会計士のフィールドは非常に大きいので、会計+aの知識を持つことは活躍の可能性を高めていくと思います。

もちろん上記のような能力の保持も目指していきたいと考えていますが、一番私が考えている一芸とは「会計」そのものです。公認会計士試験では当然会計学の勉強に励んでいましたが、あくまでもテキスト上での知識を身に付けたに過ぎません。特に非定型的・非日常的な取引等については実務上会計処理の仕方や判断が難しいことも多くあると思います。そこでこれから私は会計にさらに強くなり、「〇〇に関する会計については野川さんに聞くと教えてくれる」という噂が立つような会計士を目指したいです。

3. 最後に

ここまで私の原稿をお読みくださり誠にありがとうございました。これから公認会計士としての自覚を持ち社会の期待に応えるべく邁進していきます。稲門会関係者の皆さま、これからもよろしく願い申し上げます。

「合格までの道、今後の夢など」



神原 那奈子
(政治経済学部在学中)

★2020年度合格★

1. 公認会計士を目指した経緯

私が大学に入学した頃ちょうど姉が就職活動をしており、大学に入りたての当時の私には社会人としての洗礼ともいえる就職活動は大変なものに思われました。そこで、いささか合理的な理由ではありますが就職活動をするときにアピールポイントになるような大学時代に力を入れて打ち込むものを一つは作ろうと考えました。自分が興味を持てるものはなんでもまずはやってみることにして、大学1年生の春からテニスサークル・卓球クラブ・政策提言ゼミ・会計士講座入門の簿記の勉強などを始めました。はじめはこれらを並列して楽しんでいましたがだんだん全てを続けることが時間的・体力的に難しくなってきました。そして続けたいことに絞っていった結果、残ったのが公認会計士の勉強でした。最初に複式簿記を習ったときにこんなにも整然としたシステムを作った人はなんて頭がいいのだろうと感動し、そのとき以来いまでも自分の家計簿は複式簿記でつけています。ともかく私は公認会計士を簿記に魅せられて目指すことにしました。

2. 合格までの道

さて、私が紆余曲折を経て公認会計士の資格試験に絞って勉強を始めたときにはすでに大学2年生の春になっていました。周りの同期に半年ほど遅れをとってのスタートで、その年の12月短答合格を目指すためには圧倒的に時間がありませんでした。とにかく勉強の効率化を徹底し、重要論点・頻出論点に絞って瑣末論点は潔く全て捨てました。直前期には2週間に一度のペースで模試があり、2週間ごとの計画を立てては予備校のチューターさんに見て

もらい適時に勉強方針の修正をしてもらいました。講師の先生には「12月合格を決めたら人生が変わるくらいの気持ちで頑張れ」といっていただき、起きている時間は常に勉強、隙間時間は暗記の確認をしていました。当時のチューターさんと講師の先生がたには、論点自体の質問やモチベーションの維持など全ての面でサポートをしていただき本当にお世話になりました。周囲の方のサポートと12月で絶対受かりたいという強い目的意識のもと、これまでの人生で一番集中して勉強しました。結果12月短答で合格を決めることができ、コロナによる試験延期などもありましたが論文式試験まで合格することができました。

3. いま

いま私は通っていた会計士予備校で合格者チューターとして働いています。受講生の質問・学習相談対応、講師の先生の教材作りの手伝い、模試の運営などが主な仕事です。自分がお世話になった分、今度は予備校に貢献し後輩たちのサポートがしたいと思いチューターを引き受けました。実際、後輩が慕って質問や相談に来て頼ってくれることにとってもやりがいを感じています。また予備校全体の運営においてはチューターリーダーとして同期チューターたちに指示を出す立場にあり、相手に責任感を持って納得して動いてもらうようにすることの難しさを感じています。今働いている予備校は比較的新しくまだ成長途上の組織で、働く上で常に完璧な環境が整っているわけではありません。しかし改善などの提案をすると上の人がすぐに動いてくれる土壌があります。アルバイトではありますが自分でも組織をよくしていける、よくしていきたいと思える職場です。組織の全ての構成員がより良い環境を作ろうという意識を持つことは小さい組織だけでなく大企業のような大きな組織でも必要なことです。また仕事だけでなく家の中でもそういった当事者意識というものは大切であると思います。社会の中で役割をもらって働くようになり、会計士受験生だった頃には全く考えなかったことを考えるようになりました。いつも見ていた風景でも、考え方が変われば新たな発見があります。これからする経験や出会う人から学ぶ姿勢を大切にしたいと思うとともに、どんな風に豊かに変わっていけるか楽しみに思います。

「早稲田だったからこそ」



若木 陸真
(商学部在学中)

★2020年度合格★

この度は、公認会計士稲門会会報に寄稿する機会をいただき、誠にありがとうございます。稚拙な文章ではありますが、私が公認会計士を志した経緯と今後の目標について書かせていただこうと思います。

1. 公認会計士を志した経緯

私は、大学1年生の春学期から公認会計士試験の勉強を始めました。私が公認会計士を志したきっかけは、早稲田大学で受けたスズキトモ先生の基礎会计学の授業が非常に面白かったからです。スズキ先生の講義では先生オリジナルの英語で書かれたレジュメを用いて授業が行われ、企業が会計上利益が出ているように見せかけている方法などについて実際の事例を用いて説明してくださいました。この授業を通して、漠然と電卓を叩くだけの学問だと思っていた会计学の面白さを身をもって体感したことで、会计学及び公認会計士について大きな興味を持ち、公認会計士を志すに至りました。

そして、私は公認会計士試験合格を目指して勉強を始めるのですが、どうせなら早く合格して残り2年間の大学生活を思う存分楽しみたいという邪な思いから大学2年生の5月短答合格、およびその年の8月論文合格を目指して勉強を始めます。しかし、世の中そううまくはいきません。私はその年の秋頃に挫折し、公認会計士の勉強から撤退したいと考えるようになります。その当時、私はスキーサークルに入っており、かつアルバイトも週3日行っていました。そのような状況下での短期合格を目指すためには、友人たちが当たり前のように送っている大学生活を犠牲にせざるを得ませんでした。また、勉強

を進めるにつれて、スキーサークルにとって最も重要な冬の合宿に参加することがあまりにも非現実的であることに気づき始めます。その結果、私は、憧れていた大学生活を犠牲にしてまで公認会計士を目指す意味を見出すことが出来なくなり、公認会計士の勉強から撤退しようと考えました。しかし、当時勉強から撤退すること以外考えられなくなっていた私に対し、両親は、「ここまでせっかく勉強してきたのに完全にやめてしまうのはもったいないから、とりあえず通常の12月短答を目指すコースに戻して、いったん勉強から距離を置いてから本当にやめるのかどうか考えてみてもいいんじゃない?」と助言してくれました。その助言に従い、約半月勉強から距離を置いたところ、不思議と勉強に対するやる気を徐々に取り戻すことができ、その後、大学生活をしっかり謳歌したうえで、公認会計士試験にも無事合格することが出来ました。これも全て、当時諦めかけていた私を思いとどまらせてくれて、かつ普段の生活を支えてくれた両親のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2. 今後の目標

公認会計士試験合格後、監査法人に内定をいただき、現在研修が終了したところです。まだ大学4年生であるため正式に働くことになるのは1年後なのですが、私はIPO支援に非常に強い関心があります。これは、早稲田大学の起業家養成講座という授業を受けた際に、起業家の方々及び起業を目指す学生の熱意を肌で感じ、このような方々を支援することで日本企業を盛り上げていきたいと考えたからです。このような方々に対して価値のあるサービスを提供できるよう監査法人入社後も自己研鑽に励んでいきたいと思えます。

また、私が公認会計士を志し、かつIPO支援に携わりたいと思ったきっかけはどちらも早稲田大学で受けた授業です。これらの授業を受講したのはただの偶然でしたが、このような素晴らしい授業が用意されている早稲田大学に入ったからこそ、私は公認会計士を目指し、今後の具体的な目標も見つけることが出来ました。このようにお世話になった早稲田大学に対する恩を忘れずに、立派な公認会計士になれるように邁進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「合格までの道、今後の夢など」



中村 亜実
(2013年文学部卒業)
★2020年度合格★

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という機会を頂きありがとうございます。

私は2020年度公認会計士試験に晴れて合格し、今年3月から監査法人で勤務させていただいております。僭越ながら、試験合格までの道のりや、今後の展望について書かせていただきます。

1. 会計士を目指したきっかけ

私は大学を卒業後、製薬会社に就職しMR職をしておりました。MR活動を通じて様々な医師が医療に向き合う姿を間近で見て、私も国家資格を有するプロフェッショナルとして社会から求められる職業に就きたいと思うようになったのが、会計士への転職を視野に入れ始めたきっかけです。

また、文学部出身という事もありそれまでお金にまつわる勉強をする機会がほとんど無かった分、「社会を動かすお金の流れについて学び、世の中の仕組みを深く理解したい」という想いは兼ねてから抱いていました。

そういった点で、まさに会計士は「なりたい自分」を叶えられる職業でした。

更に現実的な面でも、公認会計士は様々なライフイベントに合わせて柔軟に働き方を選べる職業である点が非常に魅力的でした。

前職を辞めて受験勉強に専念し会計士を目指すというのは勇気のいる選択ではありましたが、元々いろいろな事にチャレンジするのが好きな性格であることや、何より公認会計士になることで今後の長い社会人人生の展望が大きく拓けるという確信があったことから、思い切って公認会計士を目指す選択をいたしました。

2. 試験勉強—コロナ禍での受験—

2020年度の公認会計士試験は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う試験延期など異例の状況となりました。

私は短答試験は過年度に合格しており、コロナの影響を受けたのは論文試験のみでしたが、何より辛かったのは感染防止策として予備校の利用が大きく制限されてしまった事です。家では集中して勉強できない性分であるため、朝一番に予備校の自習室に行き夜の閉室時間ギリギリまで粘って勉強をするというスタイルで短答式試験を乗り切った私は、論文式試験の勉強では同じ方法が使えなくなってしまった事が非常に痛手でした。

特に非常事態宣言発出を受けて予備校が完全に閉室していた4月から6月頃は、自宅での勉強を余儀なくされる中どうしても家では身が入らず、モヤモヤと過ごしているうちに論文式試験の約3ヶ月延期が決定し、モチベーションはかなり低下してしまいました。幸い7月頃から予備校は時短制限付きで通えるようにはなり、自習室で他の受験生達が机に向かってる姿が常に視界に入るような環境に身を置くと、自ずとエネルギーが湧いてきて自分でも驚くほどに前向きに試験勉強に取り組めるようになりましたが、それまでの自宅でのモチベーションコントロールが全く上手くいかなかった点は未だに自分自身の課題として残っています。

しかし、直接人と接したり、他の人が頑張っている姿を見る事から受ける刺激が如何に重要であるかを痛感できたことは貴重な経験でした。

3. 今後の展望

グローバル化やITの進化、そしてコロナ禍による社会経済の激変といった環境変化の中で、会計士にはますます幅広い対応力が求められています。そうした中で社会から必要とされる真のプロフェッショナルとして活躍するためには、経験や知識の豊富さはもちろん、常に本質を見抜く視座の高さが必要だと思います。今は監査法人に入所したばかりで目の前の業務をこなす事で精一杯ですが、できるだけ自分の関わる業界や社会経済全体の動向にアンテナを張り、高い視点で物事を捉えられるよう自己研鑽に努めたいと思います。また、語学留学や海外勤務にも積極的にチャレンジしてグローバルに活躍できる人材になりたいという想いもあり、コロナ禍が収束し自由に海外へ行き来できる世の中に戻ることを切に願っております。

「公認会計士合格までの道のりと 今後の目標」



佐藤 優衣
(2018年 商学部卒業)
☆2019年度合格☆

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただきまして大変光栄に思います。拙い文章ではございますが、今回は私の公認会計士合格までの道のりと今後の目標について記載させていただこうと思います。

1. 合格までの道のり

私は2014年に早稲田大学商学部に入學しました。入學した当初は公認会計士になるという目標はなく、多くの実学を学ぶことができ、就職に直結する学部であるという点に魅力を感じ、商学部に入學しました。大学に入學してから約2年はサークルやバイトに勤しむ毎日を送っていましたが、何かに猛烈に打ち込んでいるという感覚がない日々には漠然とした不安を覚え始めていました。そんな時に出会ったのが、公認会計士という職業でした。

それから間もなくして公認会計士の学習を開始した私でしたが、順風満帆な受験生活というわけにはいきませんでした。絶対に公認会計士になりたいという強い覚悟がないまま学習を始めた私には、想像以上の膨大な学習量を日々こなしていくことが難しく、大学4年になっても合格の兆しがないという状況に陥っていました。

このまま惰性で受験を続けていても結果はついてこないと感じた私は、一度は公認会計士合格を諦め、一般就職に切り替えるという選択をしました。就活期間にはベトナムへのボランティア活動に従事したり、多くの大学OBの方とお話した

りすることで、改めて自己分析をして自らを見つめなおすことができました。しかし皮肉なことに、そのような就活期間が進むにつれてかえって、会計・監査・法律・税務・経営に関する高い専門性を持つことで様々なライフイベントがある女性でも長く働き続けることができ、様々なフィールドでの活躍の可能性が広がっている公認会計士という職業の魅力の心を底から感じるようになったのです。

そこから頂いていた内定先への就職をやめ、公認会計士受験への再挑戦を決意した私は、約1年半後に無事公認会計士試験に合格することができました。紆余曲折あった合格までの道のりではありませんが、その中でも絶えず支えてくれた家族・友人・予備校の先生方には本当に感謝しています。

2. 今後の目標

公認会計士試験合格後、現在は監査法人に就職し、様々な規模・業種のクライアントの監査業務を経験させていただいております。入社して間もなくして新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令され、リモートワーク中心となる等、環境の変化に戸惑うこともありましたが、新型コロナウイルス感染症影響にまつわる監査上の論点に1年目ながらも触れることが多く、改めてクライアントに対する重い責任がある仕事であることを日々感じております。

今はまだわからないことばかりではありますが、監査クライアントからの信頼を得るためにも、会計監査や会社のビジネスへの理解を深め、日々丁寧に目の前の仕事に向き合っていきたいと思えます。

そしてゆくゆくは、会計監査+αの知識を身につけたクライアントからの期待に応えられる存在になりたいと思っています。

改めてとはなりますが、今回は会報への寄稿という貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。まだまだ未熟者ではございますが、今後とも公認会計士稲門会の一員として、ご指導ご鞭撻のほどいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願ひ致します。

「誰かがいてこそ」



小野 裕矢

(2020年 政治経済学部 経済学科卒業)

☆2019年度合格☆

人生の中で特別な年となった2020年、これまで培ってきたライフスタイルをガラッと変えさせられた年であり、友人や家族といった大切な人達との交流を制限された年であり、そして会計士としての第1歩を踏み出した年でもありました。仕事にも少しずつ慣れてきたある日、思い出の詰まった早稲田大学に赴き、思い出の詰まった油そばを食べながら自分の大学時代を振り返った折がございました。稚拙な文章で恐縮ですが、その折に考えたことを少しお話しさせていただければと思います。

I. 合格までの道のり

私が会計士を目指し始めたのは大学3年の4月でした。大学生活の折り返し地点に差し掛かり、就活を翌年に控えたこの年に、何も考えずただ時間を浪費していた自分に危機感を覚えました。何か真剣に打ち込めるものはないかと探していた時、なんとなく大学1年に履修した基礎会計学の授業のことを思い出し「会計の勉強って面白かったな」と思い浮かべたのがきっかけでした。

大学3年生という時期に勉強を始め、両親からは「資格浪人はさせない」ときっぱり言われていたため、大学4年生8月の論文式試験合格が絶対条件というまさに背水の陣で試験勉強に臨むことになりました。

勉強を進めていくと改めて「会計って面白いな」としばしば感じ、何冊も積み重ねられた分厚い教科書の一つずつ習得していく感覚に快感すら覚えたほどでした。

比較的順調な受験生活を過ごしておりましたが、論文式試験目前の大学4年生6月ごろ、1日中勉強し家に帰って寝るだけの無機質な生活に耐えかねて、少々精神的に参ってしまいました。閉所が苦手

な私は、一人暮らしのワンルームの部屋が窮屈に感じるあまり家の中に入ることができなくなったり、地下鉄やエレベーターなどの密閉空間に乗れなくなったりと、生活に支障が出たこともございました。見苦しい私情を書いてしまい恐れ多いですが、これが私の受験生活でした。

そんな私を支えてくれたのは、やはり家族や友人といった大切な人達の存在でした。受験が終わったら卒業旅行に行こうと誘ってくれる友人がいて、私の体調を九州の地から気にかけてくれる家族がいて、そんな大切な人達のおかげで学生合格を果たすことができました。これまでは、誰にも頼らず一人で生きていけるなどと青臭い考えを抱いておりましたが、会計士受験を通して自分は一人では何もできないことに気づかせてもらえました。

II. 今後の抱負

2020年4月1日、社会人初日から在宅ワークでスーツを着ることもなく、なんだかヌルッと始まった社会人生活でしたが、それから約1年が経ちました。この1年は右も左も分からないことの連続で、改めて自分は何もできない存在であることを日々痛感させられました。加えて、リモートワークにより隣に誰もいない状態での仕事を余儀なくされ、骨の折れる1年を過ごしました。とはいえこの1年間を総括してみると、「社会人って意外と楽しいな」と素直に思えました。これはひとえに優しく丁寧に指導して下さった先輩方、そして同じ境遇を共有し、その中で得た知見や情報を快く教えてくれる同期のおかげでした。ここでも「誰かがいてこそ自分の自分だな」とつくづく感じました。

そんな私もこの春から社会人2年目となり後輩を持つことになりました。相変わらずの社会情勢の中で、自分の代と同じ境遇に直面している後輩に、語れるほどの会計監査の知識があるわけでもなく、ためになる話ができるわけでもない自分はいったい何ができるのかと考えることも多くなりました。考えた末、会計士受験時代、そして社会人時代の私を支えてくれた「誰かがいる」という安心感を後輩にも伝えていく、これを一つ決め事として自分に課しました。

「支えられる側から支える側へ」、会計士として誇りを持ち、泥臭く精励いたします。

最後になりましたが、公認会計士稲門会に寄稿させていただき誠にありがとうございます。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「いまと、これから」



大瀨 竜彦
(大学院会計研究科在学中)

★2020年度合格★

1. はじめに

この度、私は幸いにも令和2年度公認会計士試験に合格することができました。大学2年生の夏から勉強を始め、自分なりに努力してきた結果がこのように形に現れ、大変嬉しく思っています。また、公認会計士稲門会の会報に投稿させて頂く貴重な機会を頂きありがとうございます。「合格までの道」及び「今後の夢」について書かせていただきます。

2. 合格までの道

私が公認会計士を目指したきっかけは、大学生活をただ茫然と過ごすのではなく何か1つのことにチャレンジしてみたいと思ったからです。また、数ある国家資格の中で公認会計士の資格取得を選択した理由として、私は大学受験の際第1志望に落ちたという悔しい思いをした経験があり、その悔しさを払拭することができる資格に相応しいと考えたからです。

また、公認会計士は合格後も自らの日々の努力次第で監査や税務等様々な分野のプロフェッショナルになる事ができる職業であるという面も魅力的でした。上記の理由から、公認会計士の資格を取得しようと思い実際に勉強を本格的に開始したのは先に述べた大学2年生の夏、8月でした。とは言え勉強を始めたものの膨大な量の教科書や問題集を前に呆然とし、また予備校で勉強を共にする仲間たちの情熱にも圧倒され、スタートから心が折れんばかりでした。

上記のような中、またもや衝撃的な出来事に見舞われます。それは、令和元年度12月短答式試験で合格者ボーダーを優に超えていたものの、40点未

満の科目が1科目あり不合格になったという出来事です。この時のショックは相当なものでしばらく何も手につかない程でした。

その後どうにかやる気を取り戻して勉強を再開、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により試験日が延びるという事態を経て無事合格までたどり着きました。

このような困難を乗り越え合格までたどり着けたのは常に私を支えてくれた両親や友人だと思えます。この場を借りて心より感謝を申し上げます。

3. 今後の夢

現在、PwC あらた有限責任監査法人に学生非常勤として勤務しています。

まずは、公認会計士としての基盤を着実に築いていくことが当面の目標です。また今、私は単なる「公認会計士試験合格者」に過ぎません。これから修了考査に向けた勉学に励み、数年後に「公認会計士」と名乗れるよう業務補助と実務補習をしっかり修める事が必要だと思っています。長期的な目標として、私はグローバルに活躍できる公認会計士になりたいと考えています。将来的には海外のクライアントを監査しているチームで働き、また、海外の事務所でも勤めたいと考えています。上記の目標を達成するため現在 USCPA の資格取得の勉強を開始しており、また、TOEIC の勉強も本格的に始めていこうと考えております。

4. 最後に

先に述べましたように、現在大学院に籍を置きつつ監査法人で学生非常勤として勤め始めました。入所してまもなく1ヶ月が経ちますが、毎日が学びの日々です。この先、実務の現場に出ることになれば今以上にわからないことだらけであり、また、仕事には責任が伴うため、様々なプレッシャーや困難が待ち受けていると思います。そういう状況に直面した際には、今日ここで述べた自らの公認会計士試験合格までの道のりを思い出し頑張りたいと思います。

今までもこの先も私を助けてくれるであろう人達への感謝も忘れず、私自身も誰かの助けになれるような人間になりたいと考えています。

最後になりますが、このような貴重な機会をいただきありがとうございます。稲門会の一員として今後もよろしくお願ひいたします。つたない文章ではありますが最後までお読み頂きありがとうございます。

「合格までの道のり」



廣井 至

(2019年大学院会計研究科修了)

☆2019年度合格☆

昨年度、公認会計士試験に合格しました、廣井至と申します。この度は公認会計士稲門会の会報に寄稿させていただくという貴重な機会を頂きありがとうございます。稚拙な文章ではありますが、私自身の合格までの道のりと今後の抱負について書かせていただきます。

まず私自身が公認会計士試験を目指すきっかけとなる出来事として、大学時代の講義があります。大学3年生の終わり頃、就職活動を通して将来を考える日々を送っている中で、大学の講義のゲストスピーカーとして監査法人で監査、アドバイザリー業務等に従事しておられる公認会計士の方が来られ、講義を行ってくださいました。その中で、財務会計や証券市場について、そして監査実務にまつわる話を聞く機会がありました。当時、公認会計士の方々がどのような仕事を行っているか、監査とはどういうものなのか、について何も知らなかった私にとって初めて聞く監査の話に非常に興味を惹かれたことを覚えています。同時に、会計というフィールドの幅広さを知り、その領域について深く知りたいとも思い、簿記の勉強を始めました。

就職活動の過程で、自分自身の強みは何なのか、ということをお問自答し生涯の中で専門性を積み重ねていける働き方を模索しておりました。専門性を積み重ねる働き方を考えた結果、私は早稲田大学の会計研究科へ進学し会計士を目指すことを志しました。

その後、会計研究科で学びながら、会計士試験の勉強を行うことにしました。しかし、在学中に論文式試験には合格することができず、PwCあ

らた有限責任監査法人の短答合格者採用で働きながら論文式試験の勉強を行うという環境を選択しました。働きながら目指すということが自分自身にとって最良の選択肢なのか悩みましたが、少しでも早く監査の現場を感じながら勉強を行うことは、日々のモチベーションアップや監査というイメージしづらい科目を勉強する上でも有益であったと感じています。テキストや講義だけではどうしても具体的な内容が掴みにくい科目だけに、監査の現場においてその一端を経験できることで自分自身の成績向上にも少なからず寄与したように感じます。ただ、良い側面だけではなく、働きながら勉強することで、確保できる勉強時間というものはどうしても専念できる状況と比べて少なくなります。今までと同じように勉強を行っているとは合格できないと感じ、ここで学習方法などをじっくり考える機会を持ち、見直したことも合格する上で大切なことだったと感じています。また、体力面においても、仕事を終えて家に帰りどっと疲れた状態で机に向かうというのは非常にハードでした。しかし監査の現場においても、期限までに意見形成を行うという特性上、繁忙期など時にはハードな環境に身を置くことになると思います。そのような場合においても働きながら会計士試験の勉強を行った経験というのは必ず生きてくるのではないかと考えています。

現在は引き続きPwCあらた有限責任監査法人にお世話になり、監査業務に従事しております。今後について、具体的な将来像のようなものはまだ思い描けていないのですが、まずは今いる監査の現場でチームに貢献するということを第一に考えています。自分自身が合格することができたのも、今の会社の先輩方の理解や協力なくしては達成できなかったと考えています。そのチームにしっかりと恩返しできるよう、そして力になれるよう日々、監査に関する知識を身につけて成長していくことが直近の抱負です。

最後になりましたが、会計士試験に合格し、公認会計士稲門会の一員となれたことに大きな喜びを感じています。それと同時に、まだまだ未熟な人間ですので、皆様方に様々なご指導を頂きながら成長していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

「社会で活躍できる資格」



川畑 佑輔
(2021年 商学部卒業)
☆2019年度合格☆

この度、公認会計士稲門会会報への寄稿をさせていただけることを大変嬉しく思います。

早稲田には中高大の10年間お世話になっており、稲門会の活動についても身近に感じておりました。所属している監査法人にも、稲門会活動による交流の場があり校友の広さを感じております。稚拙な文章ではありますが、公認会計士を目指したきっかけと今後の夢について書かせていただきます。

1. 会計士試験を受けるきっかけ

公認会計士という資格について知ることになったのは高校三年生の冬のことでした。

附属高校から内部推薦で学部が決まった時期に、会計士の予備校のチラシを毎日通学路で配っていたことからです。その時は楽しい大学生活を想像していたため会計士試験に挑戦する気持ちはありませんでした。

大学が始まり、新歓コンパに参加したり、授業を受けたりした際に早稲田大学は自分の想像以上に自由なところであって、なんでもできると思わせてくれました。その環境において自分もなにか行動をしないと後悔する4年間になると焦りを感じました。

そんな焦りがある中、高校の1つ先輩が会計士の勉強をしていること、3つ上の先輩は実際に会計士試験に合格したことを聞き紹介してもらいました。お会いした際に「受からない試験じゃない、合格すれば予備校代も2ヶ月の非常勤勤務で回収できる」と聞き、私は会計士試験を受ける決意をしました。

4年間熱中できそうなものを見つけた安心感と在学時に合格すれば非常勤勤務ができ、リッチな学生生活を満喫できるという点と合格後も資格に守られ新卒就活に巻き込まれないという一石三鳥に心は浮かれきっていました。

2. 論文式試験合格まで

気持ちが決まると行動は早く、欲張りな私は予備校に行きとにかく早く合格できるコースを紹介してもらい勉強を始めました。

長い授業を詰め込むスタイルで勉強しましたが、1回目の短答式試験では合格できず、2年次に合格し、悠々自適な大学生活を2年送る夢は途絶えました。次の短答試験まで半年以上あり、気持ちを切り替えるために夏休みは髪色を変え、単発のバイトを詰め込み、サークル活動と旅行で満喫しました。その後通常のコースの同期と受けることになった2回目の試験に合格できず、3年次に合格し余暇を満喫できる最後の機会である3回目の試験に向けて勉強しました。

3度目の正直で合格することができ、令和元年論文式試験はその勢いそのまま合格しました。合格発表の前日は不安になり、飲み会をしたため翌朝10時の発表のタイミングで起きられず、先に合格発表をみていた友人からの電話で合格を知りました。

勉強を始めた時の想定に、帳尻を合わせられたということが嬉しく、ホッとしました。

3. 非常勤勤務

勉強開始時には、合格後には勉強中にできなかった大学生生活をしようと考えていました。しかし合格時には、会計が楽しく、監査の座学と実務の違いについて誰よりも先に知りたくなり年間を通して仕事がしたいと思うようになりました。

在学中に監査法人から内定をいただき、年間を通して勤務したいという希望を伝え、コアメンバーとしてチームに配属され勤務することができました。

学生の内から会計・監査の実務に触れる機会があり、会計・監査の世界は想像よりも膨大なことを実感し公認会計士としてのキャリアを先んじて感じられたことは大きな財産になっています。

4. 合格後の道

4月より社会人になりましたが、社会には早稲田大学よりも自由な環境があり、なんでもできるのであれば、会計士試験のようにやりたいことを見つけ努力して行きたいと思っています。

私が感じている早稲田大学の雰囲気共有している、稲門会に所属し稲門会の活動をすることによって大学入学時のあの気持ちを忘れることなく、新しいことにチャレンジすることができると考えています。未熟者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

「会計士人生のはじまり」



游 婷琦

(商学部在学中)

☆2019年度合格☆

この度は公認会計士稲門会の会報へ寄稿する機会をいただき、大変光栄に思っております。恐縮ではございますが、会計士試験合格までの経緯と今後について書かせていただきます。

1. 簿記との出会い

簿記に初めて触れたのは、高校3年時の選択授業でした。早稲田実業学校は現在国分寺へ移転し、共学となり、商業科を廃止しておりますが、その伝統を引き継ぎ、高等部3年では「初級会計学」が開講されています。授業では簿記3級レベルの内容を学ぶのですが、ここで触れるものは他の科目に比べてとても新鮮に感じました。初めて仕訳を切った際には「ある事象を複数の側面から捉えて1行に収斂させることができるなんてすごい！」と感激しましたし、減価償却を学んだ際には「理にかなっている考え方だな」といたく感心したことを覚えております。何より数学や古文を学習していて「この知識は将来どのような形で活用するのだろうか？」とイメージが湧いていなかった私にとって、実務色が強い簿記の授業は他の科目と異なる魅力を感じるものでした。そこから公認会計士という職業を知り、「安定・高収入・女性も活躍」という予備校の宣伝文句に安易に踊らされた私は、大学入学と同時に公認会計士を目指すことにしました。

2. 合格までの道

日本では「大学生は人生の夏休み期間」などと言われ、「サークルに入って遊んでなんぼ」とい

う認識がありますが、特にサークル活動に興味がなかった私は新歓にも行かず、会計士試験に向けて勉強に取り組み始めました(今となってはサークルに入っておけばよかったなと思います)。家で勉強する習慣がなかったため、朝から自習室に通うことで勉強時間を稼ごうとしましたが、睡眠欲に支配されている私は早起きというものが苦手でした。そこで「バイトの為なら何が何でも起きるようになるだろう」と考え、通学途中にある駅で朝ラッシュに対応する駅員のバイトを始めました。おかげで早起きできるようにはなりましたが、同時に自習室到着直後に45分の仮眠をとるようになりました。勉強時間的にはトータルマイナスだったかもしれません。

新しい知識の習得は面白いものでしたが、それが「試験勉強」となると苦痛にもなり得ました。膨大な試験範囲、同じ内容でも様々な角度から突いてくる問題、注意して読まないで見逃してしまう○×問題の引っかけ、毎回同じところで間違える私の頭、電卓の打ち間違えによる誤答、解読できない自分の計算メモなどなど…。何度も投げ出したくなることもありましたが、家族や予備校仲間にも精神的に大きく支えられ、「親からの予備校代という投資を無駄にするわけにはいかない」という思いもあり、何とか論文式試験合格までたどり着くことができました。

3. 今後の目標

私は公認会計士を目指すにあたり、「特にやりたいことはないし、資格の一つでも取っておくか」という考えが頭にありました。論文式試験に合格した現在も、自分が将来会計士としてどのような道を進んでいきたいか、どのようなことを成し遂げたいか、というような明確なビジョンは未だ描けておりません。ただ、「求められる存在でありたい」という漠然とした目標はあります。

卒業後は監査法人で勤務する予定ではございますので、まずは目の前のことに真摯に取り組み、貪欲に知識を吸収し、経験を重ねていく所存です。その中で出会った業務や人との縁を大切に、「求められる存在」になれるように、そして死に際に後悔がないと思えるような、自分なりの会計士人生を歩んでいきたいと考えております。

「CPA にトライ！」



横塚 奨偉
(2021年文化構想学部卒業)

★2020年度合格★

この度は公認会計士稲門会の会報に寄稿するという素晴らしい機会を頂き、ありがとうございます。ここでは、公認会計士を目指した契機と将来について、私のラグビーの経験を交えて紹介させていただきます。

1. ラグビーとの出会い

私とラグビーとの出会いは3歳でした。父親がラグビースクールへ私を無理やり連行したのがきっかけでした。この時の出来事こそが、私の人生に彩りを加える第一段階であった事は当時知る余地もありませんでした。最初は嫌だったラグビーも次第に好きになり、上昇意識を持って取り組むようになりました。

2. 花園を目指して

ラグビー好きになった時から高校ラグビーの全国大会である花園を観るようになり、「自分も花園で会場を沸かせたい！」と思うようになり、東京で花園常連校であった久我山への憧れが強まりました。この強烈な思いを原動力に、なんとか中学受験をクリアし、入学することができました。チームで目標を達成することの困難さや楽しさを覚え、仲間とともに切磋琢磨し合い成長してきましたが、最終学年で花園の地を踏む事が出来ませんでした。私達の代は、花園出場枠が1校しかない中で、引き分け両校優勝という結果になり、抽選でハズレくじを引いてしまったのです。夢を実現する事が出来ず悔しい思いで一杯でしたが、この未練は大学で返上しようという決意に変わりました。

3. アカクロに憧れて

幼い時からワセダのファンで、テンポのある展開ラグビーに憧れを抱いていました。その為、早稲田でラグビーがしたいと考えていた為、高校では花園目指して厳しい練習をこなす傍ら、勉強に関しても

コツコツと励んでいました。早稲田以外は考えられなかった為、受験校は早稲田しか受けませんでした。無事に現役合格する事が出来ました。これで未練を果たす事ができると喜んでいるのも束の間、ラグビー部入部の必要条件である新人練習が待ち受けていました。新人練習はラグビー部員としての体力と精神力があるかを確かめる厳しい試練で、約1ヶ月間に渡って実施されました。新人練習は想像を絶する過酷さでしたがなんとか日々の訓練を耐え抜いてきました。しかし、終了まで僅か3日で大きな怪我をし、無念にも辞退をしてしまいました。こうして、アカクロのジャージを着て「荒ぶる」を歌うという夢は儚く散ってしまいました。今までラグビーを精神的支柱としてきた私にとっては人生最大の挫折を味わいました。

4. 会計士試験にチャレンジ！

いつまでも下を向いていても意味がないと感じた私は将来に向けて動き始め、一、二次にかけてキャリアに関するイベントに積極的に参加し、様々な業界の話を開きました。その中でも、公認会計士として働く方々の目が非常に輝いて映りました。また、ラグビーが出来なかった分、大学生活で真剣に打ち込めるものを求めている私にとって魅力的に映りました。暗中模索し、不透明な将来に一筋の光が差し込んだ瞬間です。公認会計士の存在を知ったその翌日から予備校に授業料を支払いその日のうちに学習を始めました。

5. 今後について

以上の経緯で挑戦した公認会計士試験は、2年間の学習を経て、晴れて合格する事が出来ました。合格発表日には多くのお祝いメッセージをいただき、周りへの感謝を強烈に実感した日でもありました。これからは監査業務を経験します。監査の現場ではチームワークが大事になりますが、ラグビーでの経験を存分に活かしたいと思います。

最後に人生は巨大なキャンパスだと思います。今までラグビーを通じて様々な経験をし、その彩りを増やしてきました。一方で公認会計士としてのキャリアは無限大で、監査に限らず様々な業務経験が積む事ができます。まずは信頼を勝ち取り、信頼され続ける一人前の公認会計士になりたいと考えます。その上でキャリアの幅を広げて、巨大なキャンパスに彩りを加えてこれからの人生を豊かにしていきたいです。

「合格までの道のり、 合格した今思うこと」



遠藤 愛佳

(2020年慶應義塾大学経済学部卒業
2021年大学院会計研究科中退)

★2020年度合格★

この度は寄稿の機会をいただけて大変光栄です。

私にとって公認会計士試験は今まで1番高い壁だったと言っても過言ではありません。そんな試験に合格出来たことは私の人生を大きく変えたと思っています。この度は僥越ながら、私が会計士を目指した理由と合格までの道のり、そして今思うことについて書かせていただきます。

1. 会計士を目指した理由

私が会計士を目指したのは大学2年の途中からでした。私は将来自分らしく生きていくために、やりがいを感じられる職業に就き、また女性のライフイベントがあっても自立して働きたいと考えていました。そのためには自らが専門性を持って多くの価値を提供できるようになる必要があると思います。様々な資格を検討しました。そこで初めて公認会計士という資格を知り、興味を惹かれたのがきっかけです。会計士は経済系で1番の難関資格であり、専門性を高められると共に「企業のドクター」として社会に直接貢献出来ます。会計士は私の思い描く将来像に非常に合致していると思うようになり、目指すことを決心しました。

2. 合格までの道のり

受験生活は想像以上に大変で、何度も合格を諦めかけては結局勉強を続けるということを繰り返して、何年間か孤独に勉強する日々を送りました。

目標だった大学在学中の合格が叶わず卒業後の進路に悩んでいたとき、早稲田には会計大学院があることを知り、ここへ通えば会計士試験合格が近づくかもしれないと希望を見出しました。そのころ大学の推薦で慶應大学院経済研究科への合格も頂いていましたが、やはり会計士により近づけ

る方が良いと思い、早稲田を受験することに決めました。

その後、大学4年の12月について短答式試験に合格することが出来ました。その時の喜びは一生忘れたくありません。続けて早稲田へも合格できたため、大学卒業後は早稲田に通いながら論文合格を目指すことになりました。早稲田では新型コロナウイルスの影響で授業がオンラインになってしまい本当に残念でしたが、進学して良かったと心から思っています。後期からは対面授業もいくつか再開され、有意義な学びを得ることが出来ました。特に印象的だったのは監査法人との提携講座で模擬監査を体験したことです。そこで初めて監査のイメージが湧き、将来働く自分を想像できる色濃い時間になりました。その時先生として教えてくださったトーマツの会計士の方々とは今も交流があり、このたび寄稿の機会を頂けたのもこの縁のおかげです。そして今私はトーマツで働いています。1年という短い間ではありましたが、様々な縁に恵まれ、早稲田に通えたことは大きな財産になりました。

3. 合格した今、思うこと

2021年2月、念願叶って論文式試験に合格することが出来ました。長く辛い受験生活でしたが、この大変な経験をしたからこそ、今後の人生をより楽しんでいけると思っています。今後の人生の中で、本来なりたかった自分の姿を見失うことも多々あると思います。しかしそんな時、自分はなぜ会計士になったのか、どれほど苦勞して会計士試験に合格したのかを思い出すことが、私の最大の原動力になります。この原動力を手に入れられたことが会計士試験合格の1番の成果であり、私の人生が変わったと思う理由です。また、私の挑戦を支え続けてくれた家族には感謝しかありません。家族に恩返しをするためにも、今後の自分の人生に誇りを持って楽しんでいきたいと思っています。

今後の目標は、プロフェッショナルとしてやりがいを持って仕事ができるようになることです。具体的なキャリアパスはまだ明確に定まっていませんが、初心を忘れず、日々の仕事に真摯に取り組み会計士として成長したいと思っています。今後稲門会の皆様にはお世話になることも多々あるかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

『中華料理ほっかい』の閉店

1人税込5千円、満腹、大瓶ビール(キリン、アサヒ、サッポロ)・日本酒・紹興酒・焼酎全て飲み放題の貸し切りで、役員会後の懇親会や忘年会で重宝していた、銀座5丁目「中華料理ほっかい」が5月26日で昭和43年以來の52年間の営業に幕を閉じました。気軽な町中華そのもので、談論風発の稲門会の宴会にピッタリ。メの上海焼きそばが好評でした。衛藤征士郎代議士の提案で、唱歌「ふるさと」を、安村長生相談役のリードで三番まで大合唱した時は、校歌とは一味違う感動がありました。ちなみに78歳のママさんのご息も早大OBでいらっしゃいました。



中華料理ほっかい(2021.5.17撮影)

中華料理ほっかいのママと藤田世潤
(歌舞伎座正面を背に店先で)

母校の最近の写真



早稲田キャンパス 正門から望む



商学部・国際教養学部



社会科学部



戸山キャンパス 右の木々の地下はスポーツアリーナです

母校の最近の写真



政治経済学部



教育学部



法学部



理工学部キャンパス



国際文学館(村上春樹ライブラリー)
2021年秋オープン
左は 演劇博物館

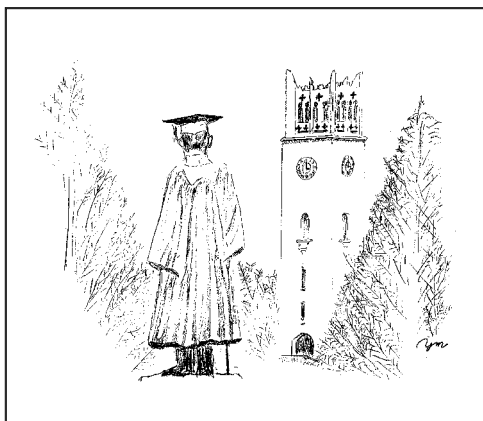


スポーツアリーナ

母校の最近の写真とスケッチ



大隈講堂と大隈記念タワー



大隈侯と大隈講堂スケッチ

「早稲田散歩」(3) 穴八幡宮 ～コロナ禍の終息を祈る～



松下 八寿彦
(1981年商学部卒業)

今回は、戸山キャンパスの通りを挟んだ向かい、馬場下町交差点にある穴八幡宮に行ってきました。

穴八幡宮は、学生時代には特に興味がありませんでしたが、職業柄？コロナ禍で、クライアントの事業の繁栄・金運、厄難消除を祈願してきました。

一陽来復お守りが有名です。一陽来復は、「陰暦11月。または、冬至」「冬が去り春が来ること。新年が来ること。」「悪いことが続いたあと、ようやく物事が良いほうに向かうこと。」の3つの意味があるそうです。穴八幡宮では、毎年冬至から節分の間、一陽来復お守りの頒布を行っています。

また、鳥居の左側に流鏝馬の像がありますが、例年体育の日(2020年からスポーツの日に改称。10月の第2月曜日)に戸山公園で流鏝馬神事が執り行われるそうです。

母校を訪れる機会があれば、是非一度お寄りくださることをお勧めします。私の場合は、拝観した後で、ワセメシの老舗メルシーで煮干だしのラーメン(450円です!)を食べるのが楽しみです。



穴八幡宮



穴八幡宮境内

令和2年 公認会計士試験合格者（公認会計士稲門会調べ）

下記は、学部が早稲田大学卒業者のみの人数です。

早稲田大学大学院卒（他大学の学部卒業）の合格者が別途15名いますので、学部、大学院全体では早稲田大学出身合格者は113名です。

（主な大学別合格者）

	大 学 名	人数		大 学 名	人数
1	慶應義塾大学	169	6	東京大学	49
2	早稲田大学	98	7	神戸大学	47
3	中央大学	74	8	京都大学	43
4	明治大学	60	9	法政大学	42
5	立命館大学	52	10	同志社大学	34

編集後記

今回は、ボリューム満点の会報となりました。全国津々浦々の会員の皆様と2年分の合格者からのご寄稿をいただきました。

小西彦衛副会長がご逝去され、追悼文を掲載いたしました。

合格祝賀会では、『足りなければ寄付します』といつもおっしゃってください、優しいお人柄が偲ばれます。

母校の最近の写真とスケッチ掲載しました。皆さんの在学中とキャンパスの雰囲気が違いますが、早稲田大学の雰囲気を少しでも味わっていただけたら、幸いです。

今回の会報に寄稿して下さった会員の選定、連絡については、藤田会長はじめ各監査法人別幹事の皆様にご尽力いただきました。

（会報担当 松下 八寿彦）

（印刷会社 三共総合印刷株式会社）